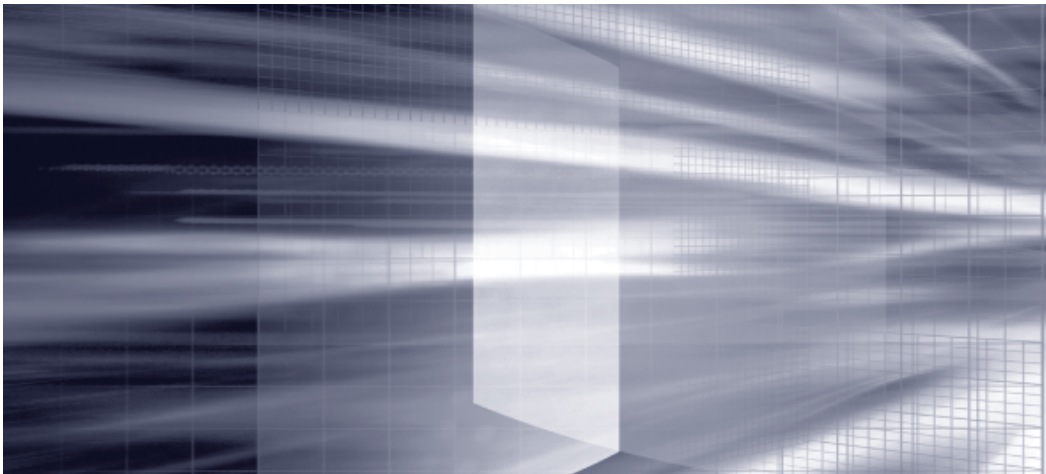


Endeavor AT980E

ユーザーズマニュアル 補足編



1 コンピューターの基本操作 p.5

電源の入れ方や切り方、キーボードやマウス、光ディスクドライブの使用
方法など、コンピューターの基本的な操作方法について記載しています。

2 装置の増設・交換 p.67

拡張ボードや HDD の増設・交換方法について記載しています。

3 BIOSの設定 p.85

コンピューターの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を
変更する方法について記載しています。

付録 p.109

本機のお手入れ方法や HDD 領域の変更方法などについて記載してい
ます。

目次

1

コンピューターの 基本操作

電源を入れる・切る.....	6
Windows 操作のヒント.....	9
キーボードを使う.....	13
マウスを使う.....	17
HDD の概要.....	18
光ディスクメディアを使う (オプション).....	21
メモリーカードを使う (オプション).....	30
USB 機器を使う.....	35
画面表示機能.....	38
サウンド機能.....	44
ネットワーク機能.....	48
インターネットに接続する.....	52
インターネットを使用する際のセキュリティ対策.....	55
省電力機能.....	61
そのほかの機能.....	65

2

装置の増設・交換

増設・交換できる装置.....	68
作業時の注意.....	70
増設・交換の準備作業.....	71
拡張ボードの装着.....	74
HDD の装着.....	79

3

BIOS の設定

BIOS の設定を始める前に.....	86
BIOS Setup ユーティリティの操作.....	87
BIOS Setup ユーティリティの設定項目.....	99

付録

お手入れ	110
消去禁止領域のデータをバックアップする	111
セキュリティーチップ (TPM) によるデータの暗号化...	113
HDD 領域 (ドライブ) の分割・変更・作成	114
リチウム電池の交換	121
コンピューターを廃棄するときは	124

1

コンピューターの基本操作

電源の入れ方や切り方、キーボードやマウス、光ディスクドライブの使用方法など、コンピューターの基本的な操作方法について記載しています。


電源を入れる・切る.....	6
Windows 操作のヒント.....	9
キーボードを使う.....	13
マウスを使う.....	17
HDD の概要.....	18
光ディスクメディアを使う（オプション）.....	21
メモリーカードを使う（オプション）.....	30
USB 機器を使う.....	35
画面表示機能.....	38
サウンド機能.....	44
ネットワーク機能.....	48
インターネットに接続する.....	52
インターネットを使用する際のセキュリティー対策.....	55
省電力機能.....	61
そのほかの機能.....	65

電源を入れる・切る

電源の入れ方や切り方、再起動の方法を説明します。



電源を入れる

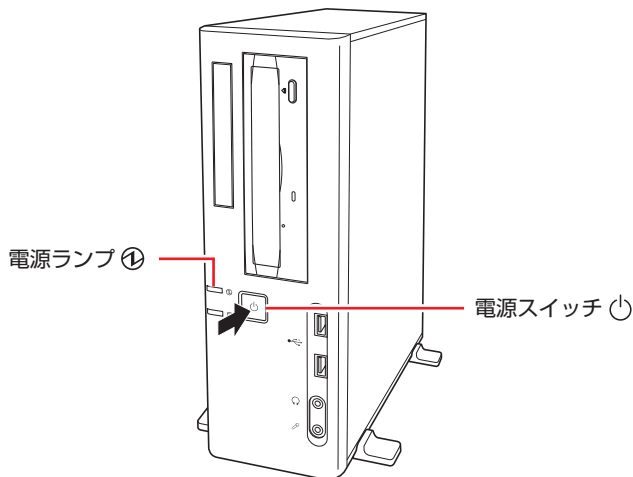
！ 制限

- 周辺機器の電源をいつ入れるかは、周辺機器のマニュアルで確認してください。電源を入れるタイミングがコンピューターより先か後かは、周辺機器により決まっています。
- USB フラッシュメモリーや USB HDDなどを接続していたり、USB FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。USB記憶装置の接続やFDのセットは、Windows起動後に行ってください。
USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
 p.97「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」
- 電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

本機の電源を入れる方法は、次のとおりです。

1 ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を入れます。

2 電源スイッチ（）を押します。
電源ランプ（）が緑色に点灯します。



画面に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

電源を切る

！ 制限

- 電源を切って、もう一度電源を入れる場合は、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDD などの動作を安定させるために、20 秒程度の間隔を空けてください。
- HDD などのアクセスランプ点灯中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っていても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

本機の電源を切る（シャットダウンする）方法は、次のとおりです。


Windows 7の場合

- 1** [スタート] () - 「シャットダウン」をクリックします。

Windows が終了し、自動的に電源が切れます。

- 2** ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows Vista の場合

- 1** [スタート] () - [▷] - 「シャットダウン」をクリックします。

Windows が終了し、自動的に電源が切れます。

- 2** ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を切ります。

📖 参考

[⏻] をクリックしたときシャットダウンするように設定する

Windows Vista では、[スタート] - [⏻] をクリックしたときシャットダウンするようにボタンの機能を変更することができます。

設定は次の場所で行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとメンテナンス」 - 「電源オプション」 - 「プラン設定の変更」 - 「詳細な電源設定の変更」 - 「電源ボタンと LID」 - 「[スタート] メニューの電源ボタンの操作」

シャットダウン時の注意

Windows を複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。

この場合は、[いいえ] をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーをログオフしてからシャットダウンしてください。

スリープにする

本機をスリープにして終了すると、本機は低電力の状態になります。スリープからは、数秒で通常の状態に復帰することができます。

スリープについての詳しい説明は、 p.61 「省電力機能」をご覧ください。

終了方法

本機をスリープにして終了する方法は、次のとおりです。

Windows 7の場合

1 [スタート] - [▷] - 「スリープ」をクリックします。

Windows Vista の場合

1 [スタート] - [⏻] をクリックします。

本機がスリープになります。画面表示が消え、電源ランプ (Ⓛ) がオレンジ色に点灯します。

復帰方法




制限

復帰の際、周辺機器はスリープに入る前と同じ状態にしてください。
スリープ中に周辺機器を取り外すなどして状態が異なると、正常に復帰できない場合があります。

本機をスリープから復帰させる方法は、次のとおりです。

1 電源スイッチ (⏻) を押します。

本機が通常状態に復帰します。

そのほかの復帰方法については、 p.64 「省電力状態からの復帰方法」をご覧ください。

再起動する

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」と言います。
次のような場合には、本機を再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windows の動作が不安定になった場合

本機の再起動方法は、次のとおりです。

1 [スタート] - [▷] - 「再起動」をクリックします。

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてください。

Windows 操作のヒント

Windows 操作についてのヒントを記載します。
本書では、主に Windows 7 の画面を使用しています。

※ Windows XP の場合は、ダウングレードモデル用別冊子をご覧ください。

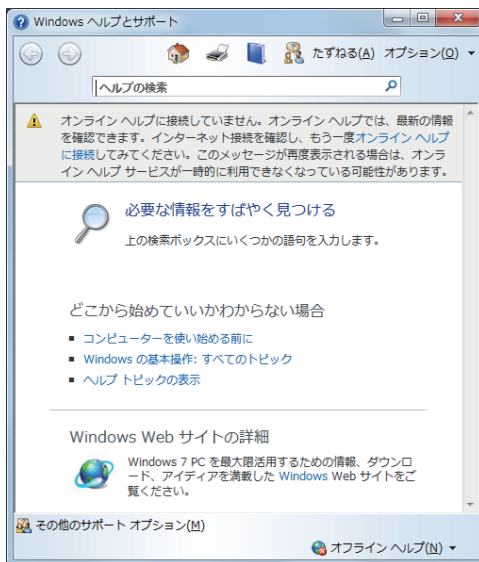
Windows の使用方法

Windows の使用方法は、次をご覧ください。

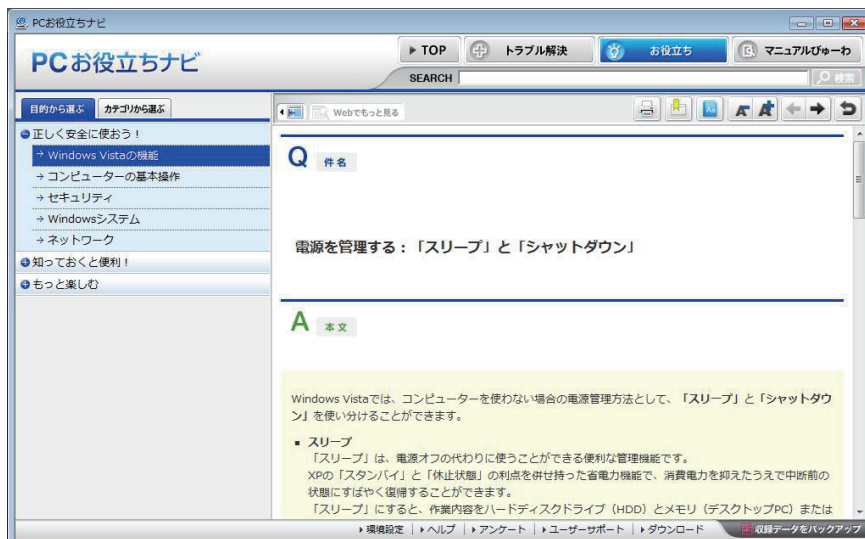
● ヘルプとサポート

「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

[スタート] - 「ヘルプとサポート」

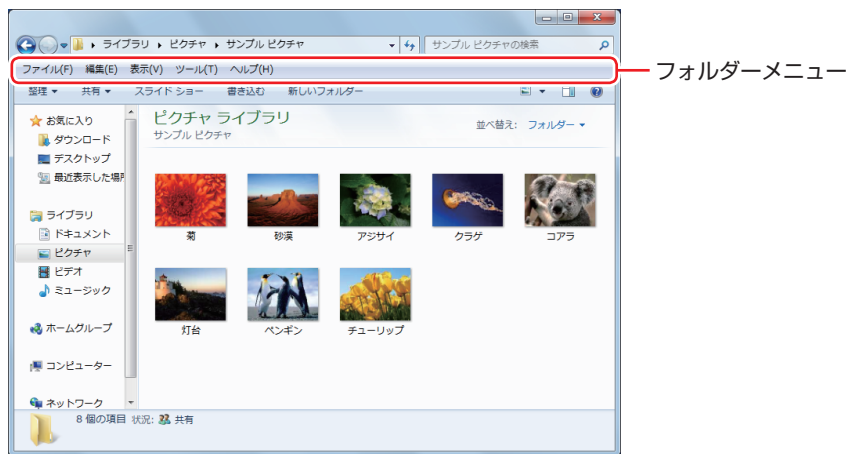


● 「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」



フォルダーメニューの表示

「ファイル」や「ツール」などのフォルダーメニューは、標準では表示されません。フォルダーメニューを表示したい場合は、**[Alt]** を押します。もう一度 **[Alt]** を押すと、フォルダーメニューは表示されなくなります。



常にフォルダーメニューを表示する

常にフォルダーメニューを表示したい場合は、次の設定を行います。

- 1 「スタート」-「コントロールパネル」-「デスクトップのカスタマイズ」-「フォルダーオプション」-「表示」タブ-「常にメニューを表示する」にチェックを付けます。

ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成すると便利です。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windows をユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

- 「スタート」-「コントロールパネル」-「ユーザーアカウント(と家族のための安全設定)」
- 「ユーザーアカウント」- 「別のアカウントの管理」- 「新しいアカウントの作成」

アカウントを作成するユーザーに応じて、ユーザーアカウントの種類(権限)を設定してください。ユーザーアカウントの種類(権限)には、次の2つがあります。

●管理者

すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバー、ソフトウェアのインストールをすることができます。

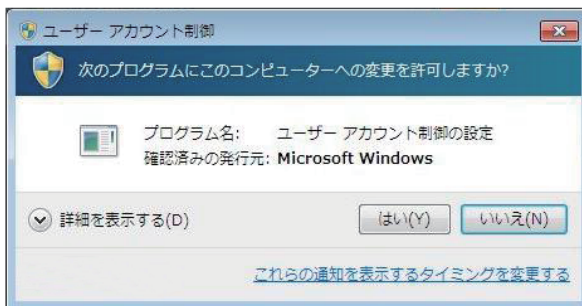
購入時やリカバリー時の Windows のセットアップで入力したユーザー名(アカウント)は、「管理者」になります。

●標準ユーザー

一部のシステム項目の変更や、ドライバー、ソフトウェアのインストールは行うことができません。管理者のパスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

ユーザーアカウント制御画面

コントロールパネルなどで  (Vista では ) が表示されているシステム項目にアクセスしようとしたら、ドライバーやソフトウェアのインストールをしようすると、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。



表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、ユーザーアカウント（管理者または標準ユーザー）により異なります。本書の手順は、管理者アカウントで Windows にログオンした状態を前提に記載しています。

Windows Live Suite (Windows 7のみ)

Windows 7 の場合、本機には、Windows Live の以下のソフトウェアがインストールされています。

- Windows Live Messenger
- Windows Live メール
- Windows Live フォトギャラリー
- Windows Live ムービーメーカー
- Windows Live Writer
- Microsoft Silverlight

起動方法

Windows Live Suite の各ソフトウェアは、次の場所から起動します。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Live」

使用方法

各ソフトウェアの使用方法は、次の場所をご覧ください。

- 各ソフトウェアのヘルプ
- 「PC お役立ちナビ」－画面下「ユーザーサポート」－「FAQ 番号：29148」
- Windows Live のヘルプページ

<http://help.live.com>

Windows Live ID を作成する

Windows Live を使用するには、Windows Live ID が必要になります。

Windows Live ID は無償で作成することができます。

インターネットへ接続後、各ソフトウェアの「サインイン」画面で作成してください。

次のいずれかのサービスをご利用の場合は、そのアカウントを Windows Live ID として使うことができます。

- MSN Hotmail
- MSN Messenger
- Microsoft Passport

サポートについて

Windows Live Suite のサポートは、マイクロソフト社で行っています。無償サポートは、電子メールのみです。

サポートの詳細は、次の Web ページをご覧ください。

<http://support.live.com>

Windows XP Mode (Windows 7 Professionalのみ)

Windows XP Mode を使用すると、Windows 7 上で Windows XP を起動し、Windows XP のアプリケーションを動作させることができます。

起動方法

Windows XP Mode は、次の場所から起動します。

[スタート]－「すべてのプログラム」－「Windows Virtual PC」－「Windows XP Mode」

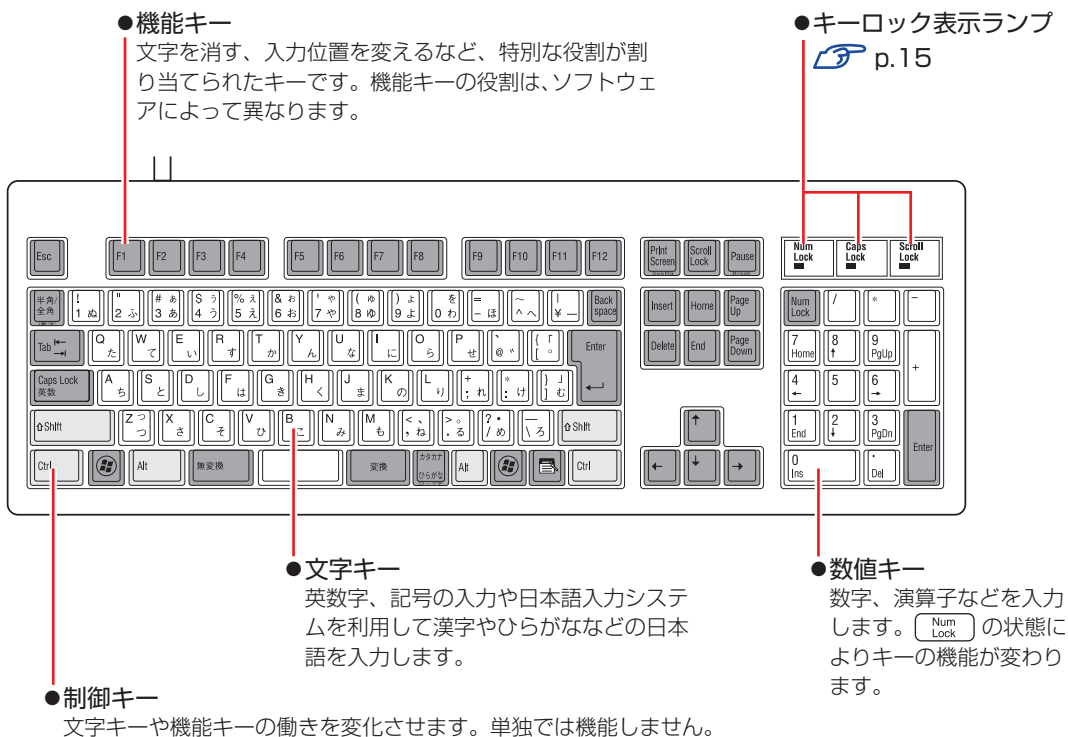
※ 初回起動時はセットアップ画面が表示されます。画面の指示に従って、セットアップを行ってください。

キーボードを使う

ここでは、一般的なキーボードについて説明します。
キーボードのマニュアル（PDF）が添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

キーの種類と役割

各キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。




文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。
入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

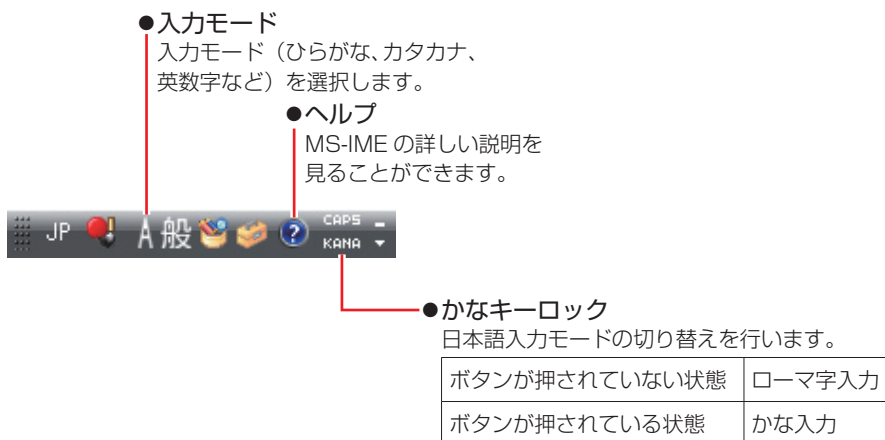
 を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。
日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。
本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IME の使い方

MS-IME パネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。
ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。



●入力モード
入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

●ヘルプ
MS-IME の詳しい説明を見ることができます。

●かなキーロック
日本語入力モードの切り替えを行います。

ボタンが押されていない状態	ローマ字入力
ボタンが押されている状態	かな入力

MS-IME 以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムのマニュアルをご覧ください。

キーロック表示ランプ

キーボード右上の3つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割	数値キーの状態を切り替え
	切り替え	 を押します。
	点灯時	数値を入力
	消灯時	カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割	アルファベットの太文字 / 小文字の切り替え
	切り替え	 +  を押します。
	点灯時	大文字を入力
	消灯時	小文字を入力
Scroll Lock	役割	ソフトウェアによって異なります。
	切り替え	 を押します。

キーボードからの起動

PS/2 キーボードでは、BIOS の設定後、設定したキーを押すと、次のようなことができます。

- 本機の電源を入れる
- 本機を省電力状態から復帰させる

 p.64 「省電力状態からの復帰方法」



制限

- この機能は、USB 接続のキーボードでは使用できません。
- 電源切断時に、正常にシャットダウンした状態でのみ使用可能です。

BIOS の設定

PS/2 キーボードのキーで起動するには、BIOS の設定が必要です。
「BIOS Setup ユーティリティ」の次の項目を有効にしてください。

「Power」メニュー画面－「APM Configuration」

「Power On By PS/2 Keyboard」：[Enabled]（有効）

 p.88 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.103 「Power メニュー画面」

「Power On By PS/2 Keyboard」を [Enabled] に設定したら、次の項目で起動に使用するキーを選択します。

「Wake up Key Select」：[Ctrl + ESC] または [Power Key]

マウスを使う

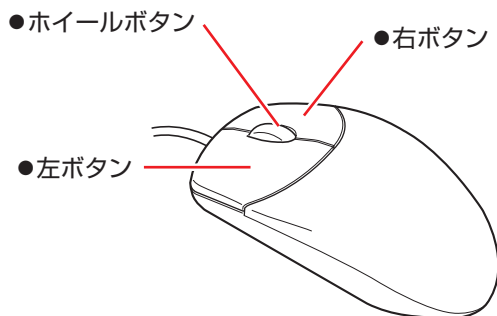
ここでは、一般的なマウスについて説明します。

マウスにマニュアル（PDF）が添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

マウスの操作

！ 制限

- 表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッドの上で使用しないでください。マウスの動きがコンピューターに伝わりません。
- ソフトウェアによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを1回カチッと押します。
ダブルクリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
右クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、右ボタンを1回カチッと押します。
ドラッグアンドドロップ	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
スクロール	ホイールボタンを指先で前後に動かすと、縦スクロール操作を行うことができます。ホイールボタンをクリックすると、マウスを動かしてオートスクロールを行うこともできます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境の変更は、次の場所で行います。

【スタート】 - 「コントロールパネル」 - 「ハードウェアとサウンド」 - 「マウス」

HDD の概要

本機にはシリアル ATA300MB/s 対応の HDD (ハードディスクドライブ) が搭載されています。HDD は、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。

制限

- HDD のアクセスランプ点灯・点滅中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯・点滅中は、コンピューターが HDD に対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD 内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えると HDD が故障するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。
- HDD が故障した場合、HDD のデータを修復することはできません。

データのバックアップ

HDD に記録されている重要なデータは、CD メディアや外付け HDD などにバックアップしておくことをおすすめします。万一 HDD の故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。バックアップ方法は、次の場所をご覧ください。

Windows 7 の場合



「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」 - 「カテゴリから選ぶ」 - 「Windows の操作」 - 「バックアップ」

Windows Vista の場合



「PC お役立ちナビ」 - 「トラブル解決」 - 「Windows の操作」 - 「バックアップ」

購入時のHDD領域

購入時の HDD は、お客様の選択により次のように設定されています。

通常

HDD	ドライブ (領域)	容量
1 台目	消去禁止領域	約 2.7GB
	C ドライブ	残り
2 台目	D ドライブ	2 台目すべて

すべてのドライブは NTFS ファイルシステムでフォーマットされています。

HDD 設定変更サービスを選択された場合

HDD	ドライブ (領域)	容量
1 台目	消去禁止領域	約 2.7GB
	C ドライブ	購入時に選択された容量
	D ドライブ	残り
2 台目	E ドライブ	2 台目すべて

すべてのドライブは NTFS ファイルシステムでフォーマットされています。



参考

HDD 設定変更サービス

HDD 設定変更サービスとは、1 台目の HDD の領域を C ドライブ、D ドライブに分割した状態でコンピューターをお届けするサービスのことです。

消去禁止領域とは

「消去禁止領域」には、本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データや、「Windows 回復環境 (Windows RE)」が設定されています。

この領域は、絶対に削除しないでください。

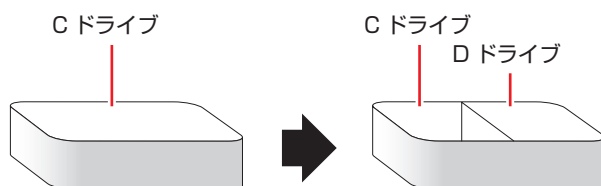
削除してしまうと、本体ドライバーやソフトウェアのインストールができなくなります。

HDDを分割して使用する

1 台の HDD をいくつかの領域に分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。

1 台の HDD を分割する

例：1 つの HDD 領域 (C ドライブ) を 2 つの HDD 領域 (C ドライブと D ドライブ) に分割することができます。



C ドライブを分割する場合は Windows の再インストールが必要です。
詳しくは、[📖 p.115 「C ドライブを分割・変更する」](#)をご覧ください。

HDDを増設・交換したら

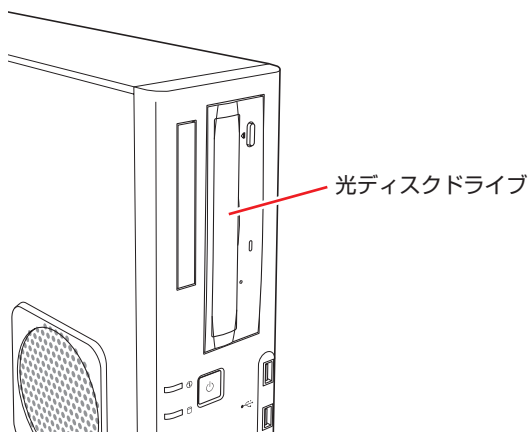
HDDを増設・交換した場合は、 p.118「HDD領域（パーティション）の作成手順」をご覧ください。

制限

すでにデータが登録されているHDDにドライブを作成すると、そのHDDに保存されていたすべてのデータが消失します。ドライブを作成する前に、重要なデータが保存されていないことを確認してください。

光ディスクメディアを使う（オプション）

本機には、購入時に選択されたシリアル ATA 仕様の光ディスクドライブが搭載されています。
※ 光ディスクドライブなしを選択された場合は、搭載されていません。
光ディスクドライブは、CD-ROM などの光ディスクメディアを使用するための機器です。
ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。



警告

光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアを使用しないでください。飛び散って、けがをする危険があります。



注意

光ディスクドライブのディスクトレイに手を入れないでください。はさまれると、けがの原因になります。



制限

本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロール CD」などの特殊ディスクは、動作保証していません。本機で動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

使用可能な光ディスクメディア

光ディスクドライブの種類によって、メディアへの書き込みや DVD の再生など、使える機能が異なります。

お使いの光ディスクドライブで使える機能とメディアの種類は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－「マニュアルびゅうわ」－「光ディスクドライブ取扱説明書」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－「お役立ち」

光ディスクメディアのセットと取り出し

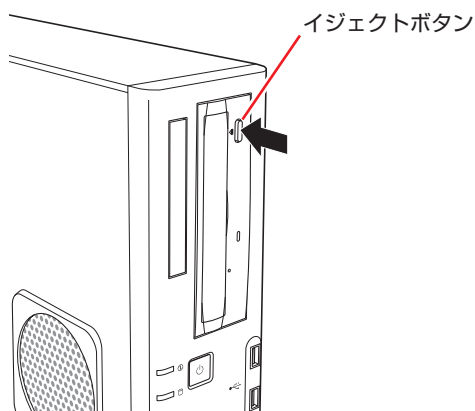
光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。

！ 制限

- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。
- メディアの出し入れのとき以外は、ディスクトレイの開閉をしないでください。
- 開いているディスクトレイの上に物を置かないでください。また、上から強く押さないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機を縦置きで使用している場合、8cmのメディアは使用できません。また、縦置き横置きに関係なく、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

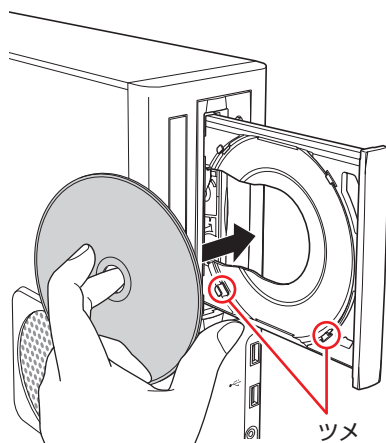
セット方法

- 1 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



- 2** メディアの印刷面を本体の左側に向け、ディスクトレイにある落下防止用のツメ（下側2箇所）にセットします。

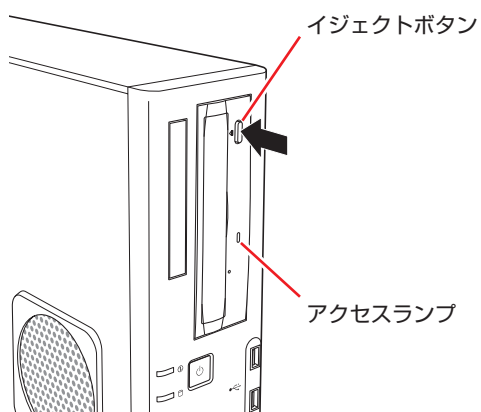
本機が横置きの場合は、メディアの印刷面を上側に向けてセットします。



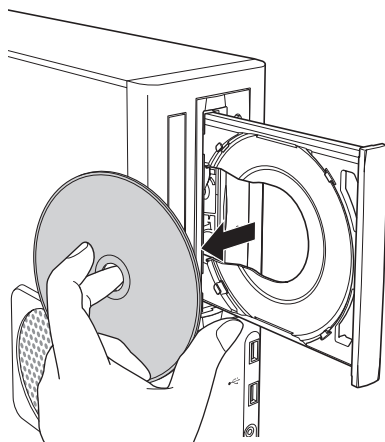
- 3** イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

- 1** アクセスランプが点灯・点滅していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



- 2 光ディスクメディアをディスクトレイから取り出します。



- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。



参考

イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合

ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくはお使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

強制的な光ディスクメディアの取り出し

次のような場合には、強制的に光ディスクメディアを取り出すことができます。

- 光ディスクドライブの動作が不安定になったり、故障したりして、光ディスクメディアが取り出せない場合
- 光ディスクメディアをセットしたまま、本機の電源を切ってしまった場合

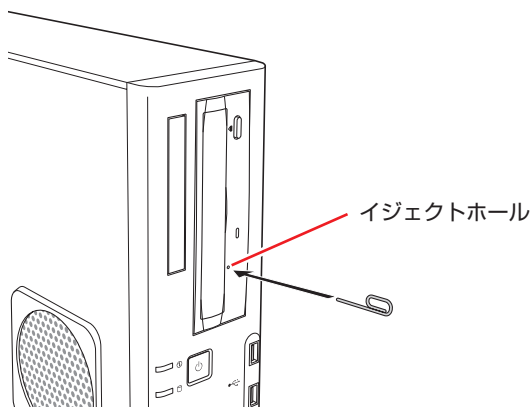
強制的な光ディスクメディアの取り出し方法は次のとおりです。

- 1 本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。

 p.7 「電源を切る」

- 2** イジェクトホールに先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたものなど）を差し込みます。

お使いの光ディスクドライブによりイジェクトホールの位置は異なります。



- 3** ディスクトレイが少し飛び出したら、ディスクトレイを引き出し、光ディスクメディアを取り出します。

CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データ CD を読み込めるほかに、音楽 CD やビデオ CD、フォト CD などの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

DVDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データが収録された DVD メディアを読み込めるほかに、DVD VIDEO などの再生ができます。DVD VIDEO の再生には、専用のソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO 再生ソフト

DVD VIDEO の再生には、「WinDVD」を使用します。

WinDVD は、次の場所から起動します。

【スタート】 - 「すべてのプログラム」 - 「Inter Video WinDVD」 - 「Inter Video WinDVD for EPSON」

WinDVD の詳しい使用方法は、WinDVD のヘルプをご覧ください。

DVD VIDEO 再生時の不具合

WinDVD で DVD VIDEO の再生をすると、次のような不具合が発生する場合があります。

- 解像度や色数、リフレッシュレートの設定により、DVD VIDEO の再生ができないことがあります。

DVD VIDEO の再生ができない場合は、解像度や色数、リフレッシュレートを調節してみてください。

 p.38 「表示に関する各種設定」

- ディスプレイを 2 台接続して、クローン表示をしていると、「使用しているディスプレイ環境は保護されているコンテンツの再生をサポートしていません。」というメッセージが表示され、DVD VIDEO の再生が中断されます。このような場合は、クローン表示を無効にしてください。

CPRM で著作権保護されたメディアを再生するには

CPRM で著作権保護されたメディアを再生する場合は、インターネットに接続した状態で、「CPRM Pack」のダウンロードおよびインストールを行ってください。

「CPRM Pack」のダウンロードとインストール

インストールには、CPRM で著作権保護されたメディアが必要になります。「CPRM Pack」のダウンロードおよびインストール手順は次のとおりです。

- 1** 「スタート」 - 「すべてのプログラム」 - 「InterVideo WinDVD」 - 「InterVideo WinDVD for EPSON」 をクリックし、WinDVD を起動します。
- 2** CPRM で著作権保護されたメディアを光ディスクドライブにセットします。
- 3** 「CPRM のサポートが有効になっていないため、CPRM コンテンツを再生できません。・・・」 と表示されたら、[OK] をクリックします。
- 4** 「InterVideo オンライン登録ページへようこそ」と表示されたら、メンバー登録を行います。
メンバー登録が終了すると、ダウンロードページが表示されます。
- 5** ダウンロードページが表示されたら、画面の指示に従って、「CPRM Pack」のダウンロードとインストールを実行します。

CPRM で著作権保護されたメディア再生時の制限事項

CPRM で著作権保護されたメディアの再生には、次の制限事項があります。

- 管理者 (Administrator) のアカウントでログオンしてください。
- DVI-D でデジタル出力する場合は、HDCP 規格に対応したディスプレイをご使用ください。
- 2 台のディスプレイに同じ画面を表示するクローン (ミラー) 表示はできません。

WinDVD ユーザーサポート情報

WinDVD に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。
※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

ホームページ : <http://www.corel.jp/>
サポートホームページ : <http://www.corel.jp/support/>
電話 : 045-226-3899
サポート時間 平日 10:00 ~ 12:00 13:30 ~ 17:30
(土・日・祝日・夏季・年末年始・特定休業日を除く)

メールでのお問い合わせは、サポートホームページに掲載されているメールフォームからご利用いただけます。

WinDVD のよくある問い合わせ (FAQ) もサポートホームページに掲載しております。

コーレル株式会社

光ディスクメディアへの書き込み

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。

書き込み可能なメディアは、お使いの光ディスクドライブにより異なります。書き込み可能なメディアについては、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅーわ」 - 「光ディスクドライブ取扱説明書」



制限

作成した DVD VIDEO は、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 9 Essentials」が添付されています。

 p.28 「Nero 9 Essentials の使い方」

書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

●省電力機能を無効にする

メディアへの書き込み時に、Windows が省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗して、メディアに記録したデータが失われたり、メディアが使用できなくなる可能性があります。

書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.63 「時間経過で移行させない」

省電力状態に移行する場合は、必ず光ディスクドライブからメディアを取り出してから行ってください。

●速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ

書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

光ディスクドライブの書き込み速度は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 【マニュアルびゅーわ】 - 「光ディスクドライブ取扱説明書」

Nero 9 Essentialsの使い方

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

ライティングソフト「Nero 9 Essentials」を使用すると、CD メディアや DVD メディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。



制限

「Nero 9 Essentials」と Windows 7 標準の書き込み機能を同時に使用しないでください。

使い方

Nero 9 Essentials を起動するには、デスクトップ上の「Nero」アイコンをダブルクリックします。



< Nero アイコン >

Nero 9 Essentials の詳しい使用法は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 【マニュアルびゅーわ】 - 「Nero ヘルプ」



「PC お役立ちナビ」 - 【お役立ち】

Nero 9 Essentials ユーザーサポート情報

Nero 9 Essentials のサポートについて説明します。

サポートセンターに連絡する前に

Nero 9 Essentials の操作などでお困りの場合は、サポートセンターに連絡する前に、まず Nero 9 Essentials のヘルプ、ホームページのサポート情報をご覧ください。

<http://www.nero.com/jpn/support.html>

サポートセンターに問い合わせる

ヘルプ、ホームページのサポート情報を見ても問題が解決しない場合は、下記にお問い合わせください。

※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

株式会社 Nero サポートセンター

受付時間 : 10:00 ~ 12:30/13:30 ~ 17:00
月～金曜日（祝、特定休業日を除く）

TEL : 045-910-0255

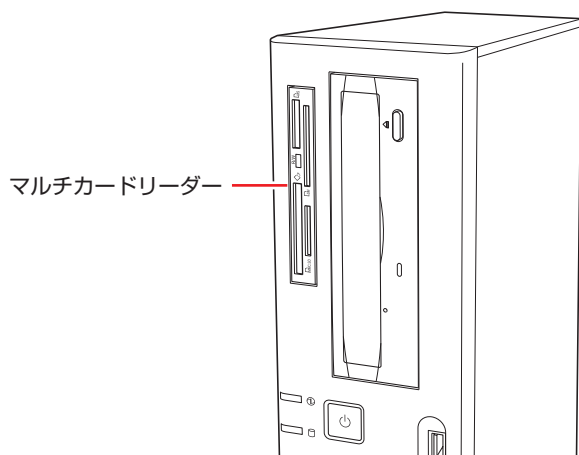
ホームページ : <http://www.nero.com/jpn/support-nero9.html>

E-MAIL : 上記ホームページのサポートページからお問い合わせください。

※お問い合わせの際は、パソコンの機種名をお知らせいただく必要があります。

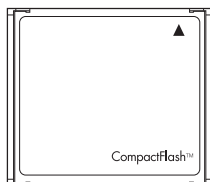
メモリーカードを使う（オプション）

購入時にオプション選択された場合、本機前面には、マルチカードリーダーが搭載されています。本機のマルチカードリーダーでは、5種類のメモリーカードを使用することができます。

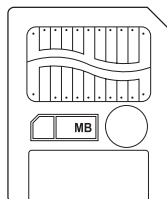


使用可能なメモリーカード

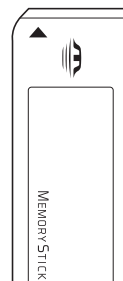
本機で使用できるメモリーカードは次の5種類です。イラストは各メモリーカード表面のイメージです。



<コンパクトフラッシュ>



<スマートメディア>



<メモリースティック>



<SD (SDHC) メモリーカード>



<マルチメディアカード>


制限

- コンパクトフラッシュで、モデム、LAN、PHS カードなどの I/O カードは使用できません。
- SD メモリーカードは、Secure Digital 機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- SD I/O カードおよび SD Combo カードは使用できません。
- スマートメディアは、3.3V タイプ（3V と表示されているのも可）のみサポートしています。5V タイプのカードは使用できません。
- ID 付きのスマートメディアも使用できますが、ID 機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- スマートメディアの ROM カードには対応していません。
- マジックゲート付きのメモリスティック（白色）も使用できますが、マジックゲート機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- メモリスティックで、メモリー以外の I/O カード（GPS 用など）は使用できません。
- メモリスティックおよびメモリスティック PRO の高速転送、セキュリティー機能には対応していません。
- マルチメディアカードでは、Keitaide-Music 対応カードも使用できますが、Keitaide-Music 機能（UDACMB プロトコル）には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- マルチメディアカードは、読み取り速度や書き込み速度が、ほかのカードに比べて遅くなります。これはカードの規格による制限です。

メモリーカード使用時の注意

メモリーカードは、次の点に注意して正しく使用してください。

- マルチカードリーダーアクセスランプ点滅中にメモリーカードを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。メモリーカード内のデータが破損する恐れがあります。
本機の電源を切る場合や再起動する場合は、必ずメモリーカードを取り出してから行ってください。
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- データの書き込み途中に、本機が省電力状態に移行するなどして電源の供給が停止すると、メモリーカードに不具合が発生する可能性があります。メモリーカードを使用するときは、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.63 「時間経過で移行させない」

メモリーカードのフォーマット

メモリーカードのフォーマットは、必ずメモリーカードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリーカードが認識されなくなる場合があります。

フォーマットの方法は、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

メモリーカードのセットと取り出し

メモリーカードのセットと取り出し方法、割り当てられるドライブについて説明します。

メモリーカードのセット

メモリーカードのセット方法は次のとおりです。

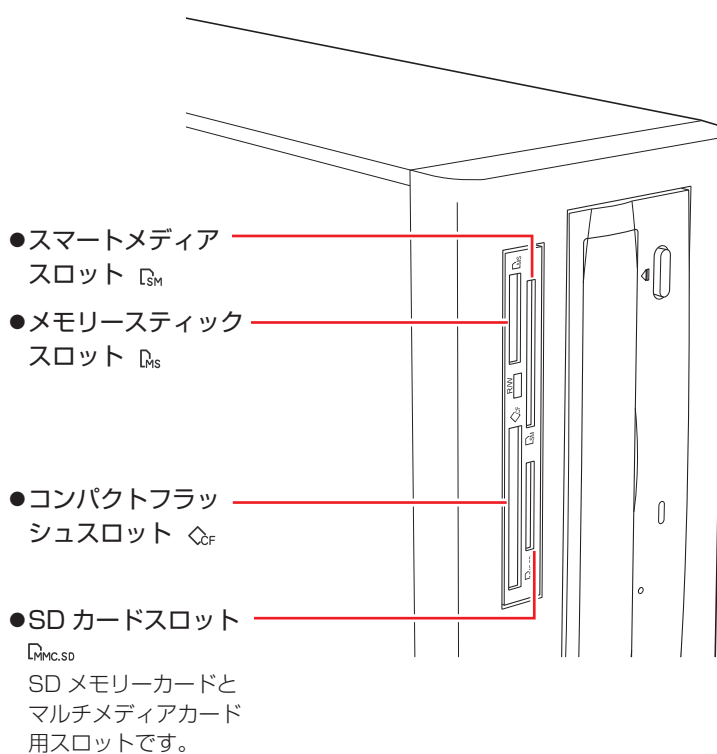



制限

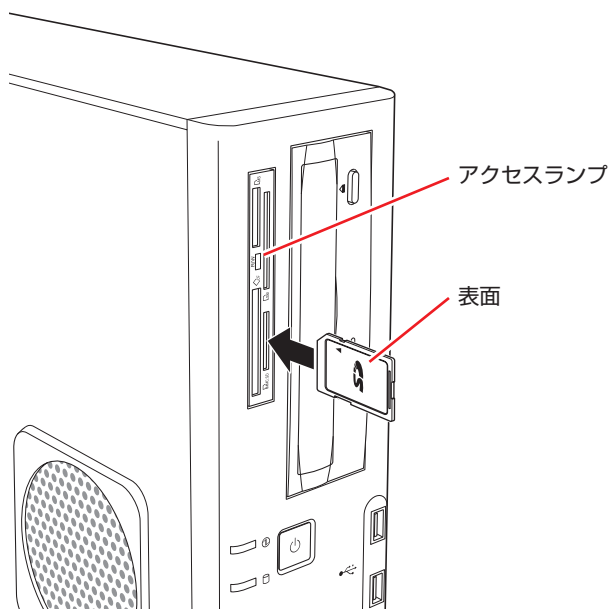
本機にメモリーカードをセットした状態で電源を入れたり、再起動したりすると、Windows が起動しないことがあります。メモリーカードは Windows 起動後にセットしてください。

1

使用するメモリーカードのスロット位置を確認します。



- 2** メモリーカードの表面を左側に向け、対応するスロットにカードを押し込みます。
メモリーカードの表面は、 p.30 「使用可能なメモリーカード」で確認してください。
正しくセットされるとアクセスランプが点灯します。



メモリーカードによっては、正しくセットされていてもスロットから数 cm 出たままのものもあります。

メモリーカードのドライブ名

メモリーカードは、E～Hのドライブに割り当てられます。(光ディスクドライブがDドライブの場合)

メモリーカード	ドライブ名
コンパクトフラッシュ	E
スマートメディア	F
メモリースティック	G
・SDメモリーカード ・マルチメディアカード	H

メモリーカードの取り外し

メモリーカードの取り外し方法は、次のとおりです。

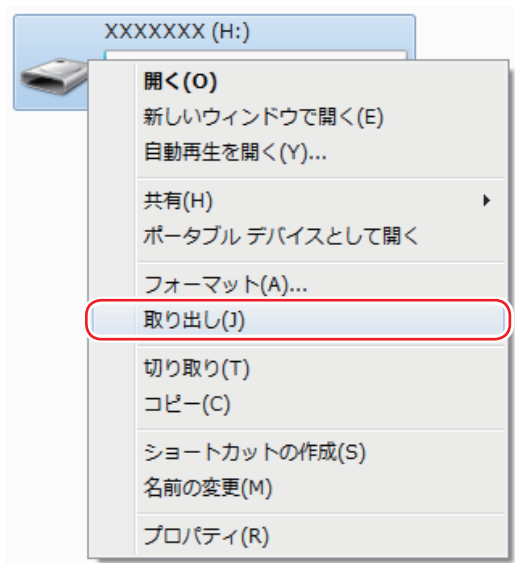
1 メモリーカードの終了処理を行います。

本機の電源を切っている場合は、終了処理は不要です。**2**に進みます。

① 開いているファイルを閉じます。

ファイルを閉じないと、終了処理ができません。

② マルチカードリーダーのアクセスランプが点滅していないことを確認してから、[スタート] - 「コンピューター」 - 「取り外すメモリーカードのアイコン」を右クリックし、「取り出し」をクリックします。



2 メモリーカードを取り外します。

取り出したメモリーカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

USB 機器を使う


本機には USB2.0 に対応した USB コネクタが、前面に 2 個、背面に 4 個、合計 6 個搭載されています。

USB コネクタには USB 対応の機器を接続します。6 個の USB コネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。

！ 制限

- USB フラッシュメモリーや USB HDD などの USB 記憶装置を接続していたり、USB FDD に FD がセットされている状態で本機の電源を入れると、Windows が起動しないことがあります。USB 記憶装置は、Windows 起動後に接続してください。

USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動したい場合は、「BIOS Setup ユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。

 p.97 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」

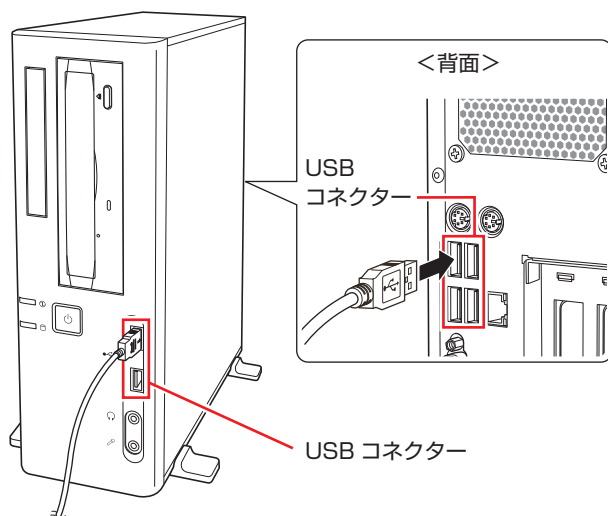
USB機器の接続と取り外し

USB 機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

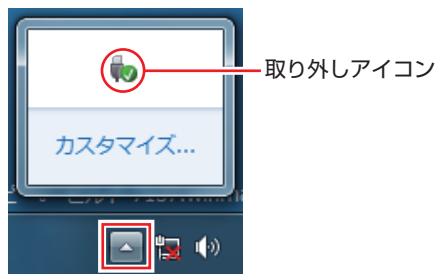
接続

USB 機器の接続方法は、次のとおりです。

- 1 USB 機器の USB コネクタを、本機の USB コネクタ () に接続します。



- 2** USB 機器によっては、「通知領域」 – [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されます。Windows Vista の場合は、通知領域にアイコンが表示されます。



接続する USB 機器によっては、専用のデバイスドライバーが必要です。詳しくは USB 機器のマニュアルをご覧ください。

USB 機器の取り外し

USB 機器の取り外しは、コンピューターの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

●そのまま取り外す

通知領域 ([△] 内) に「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合はそのまま取り外せます。

●USB 機器の終了処理をして取り外す

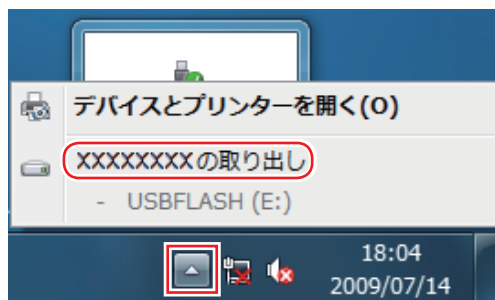
通知領域 ([△] 内) に「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

USB 機器の終了方法は次のとおりです。

Windows 7 の場合

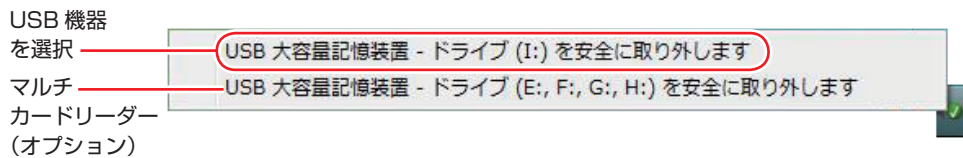
- 1** 「通知領域」 – [△] – 「取り外し」アイコン – 「(取り外したい USB 機器) の取り出し」をクリックします。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。



- 2** 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、USB 機器を本機から取り外します。

- 1 「通知領域」－「取り外し」アイコン－「(取り外したい USB 機器) を安全に取り外します」をクリックします。



複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。
オプションのマルチカードリーダーをお使いの場合は、誤ってマルチカードリーダーを停止させないよう注意してください。マルチカードリーダーを停止させた場合、本機を再起動しないとマルチカードリーダーは使用できません。

- 2 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、[OK] をクリックし、USB 機器を本機から取り外します。

画面表示機能

本機のマザーボード上には画面表示機能が搭載されています。
ここでは、表示するディスプレイや解像度などの設定方法について説明します。

ディスプレイの接続

接続できるディスプレイの種類

本機には、VGA コネクタと DVI-D コネクタの 2 つのコネクタが搭載されています。
ディスプレイの接続方法は、次のとおりです。

接続方法	接続するコネクタ
デジタル接続	DVI-D コネクタ
アナログ接続	VGA コネクタ

ディスプレイの接続

ディスプレイの仕様に合わせて、ディスプレイと本機を接続します。本機では、ディスプレイを 2 台同時に接続することもできます。

ディスプレイの接続は、本機とディスプレイの電源を切ってから行ってください。

ディスプレイの表示の切り替え方法は、 p.41 「画面表示の切り替え方法」をご覧ください。

表示に関する各種設定

画面表示に関する設定は次の場所で行います。

Windows 7 の場合

デスクトップ上の何も無いところで右クリック → 「画面の解像度」



解像度を設定します

1. LD1731W

1280 × 1024 (推奨)

横

使用しているディスプレイの名称

詳細設定

表示機能や表示装置に関する詳細設定を行います (色数やリフレッシュレートなど)

OK キャンセル 適用(A)

ディスプレイ表示の変更

検索(C) 識別(I)

ディスプレイ(D):

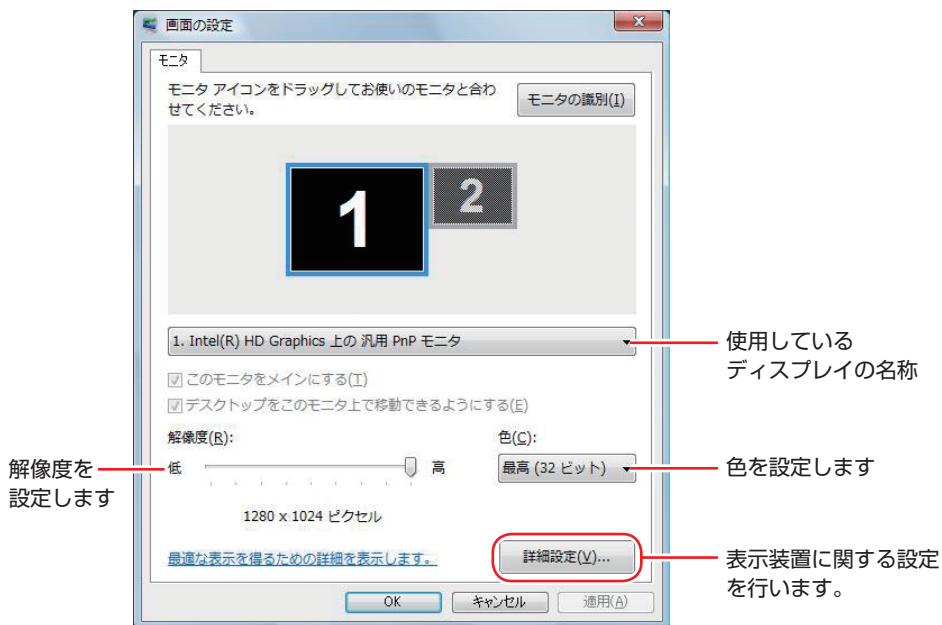
解像度(R):

向き(O):

テキストやその他の項目の大きさの変更

どのディスプレイ設定を選択しますか?

デスクトップ上の何も無いところで右クリック - 「個人設定」 - 「画面の設定」



表示できる解像度と表示色

本機の画面表示機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

●解像度 ピクセル (横×縦)

- 800 × 600
 - 1024 × 768
 - 1280 × 768 *
 - 1280 × 1024
 - 1360 × 768 *
 - 1440 × 900 *
 - 1600 × 1200
 - 1680 × 1050 *
 - 1920 × 1080 *
 - 1920 × 1200 *
- * ワイド表示

●表示色

- 中 (16ビット) / 最高 (32ビット)

制限

- 記載している解像度は、本機に搭載されたビデオコントローラーの出力解像度です。表示モードや接続するディスプレイの仕様によっては、表示できない場合があります。
- ディスプレイを2台接続してクローン表示した場合、実際に表示できる最大解像度は、コンピューター側の最大解像度と接続するディスプレイの最大解像度のうち、どちらか低い方になります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトで動画を再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてください。

画面表示の種類

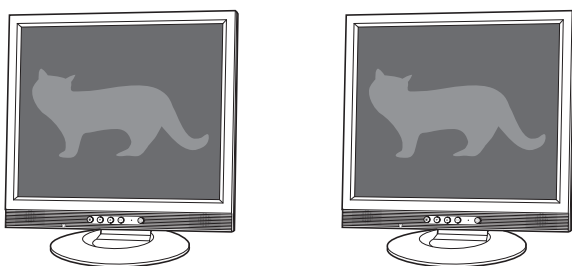
本機では、次のような画面の組み合わせで表示ができます。

● シングルディスプレイ

1つのディスプレイに表示します。

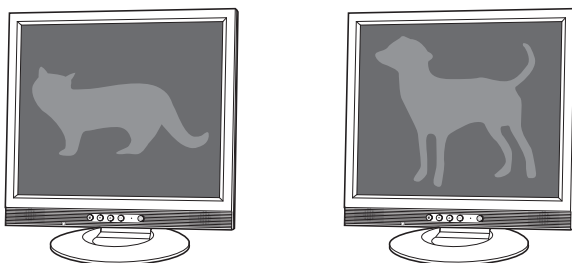
● クローン

2つのディスプレイに同じ画面を表示します。プレゼンテーションを行う場合などに便利です。



● 拡張デスクトップ

2つのディスプレイに対して、個別に設定することができます。複数の画面をコンピューター上に表示する場合に便利です。

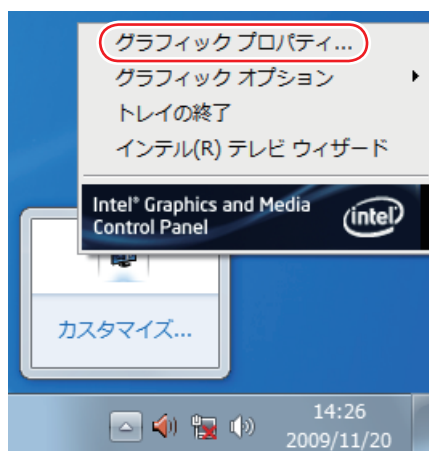
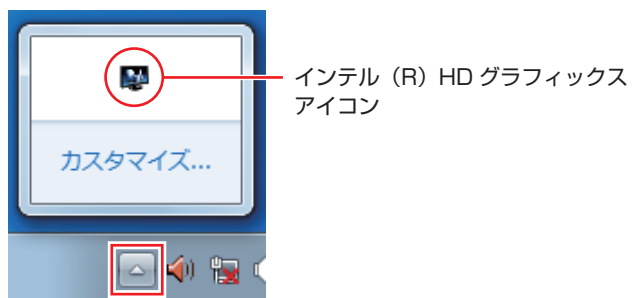


画面表示の切り替え方法

ディスプレイの表示を切り替える方法は、次のとおりです。
ディスプレイ 2 台に表示する場合は、本機にディスプレイを 2 台接続してから切り替えを行ってください。

- 1 「通知領域」 - [△] - 「インテル (R) HD グラフィックス」アイコンをクリックし、「グラフィック プロパティ…」を選択します。

Windows Vista の場合は、通知領域にアイコンが表示されています。



- 2** 「インテル® グラフィック / メディアコントロール・パネル」が表示されたら、「マルチディスプレイ」の「動作モード」でディスプレイの表示方法を選択します。

 p.40 「画面表示の種類」



- 3** 「拡張デスクトップ」を選択した場合は、「主ディスプレイ」、「2番目のディスプレイ」を設定します。

「主ディスプレイ」には、[スタート]メニューやタスクバーが表示されます。



4 「一般設定」で解像度などを設定します。



5 [OK] をクリックします。

6 「新しい設定が適用されました。これらの設定を保持しますか？」と表示されたら、[OK] をクリックします。

これで画面の切り替えは完了です。



参考

グラフィックオプションから設定する

ディスプレイの表示の切り替えは、次の場所からも行えます。

「通知領域」(- [△]) - 「インテル (R) HD グラフィックス」アイコンをクリック - 「グラフィックオプション」 - 「出力先」

サウンド機能

本機のマザーボード上には、サウンド機能が搭載されています。

内蔵モノラルスピーカー

本機には、モノラルスピーカーが内蔵されており、外部スピーカーを接続しなくても、音声を出力することができます。



参考

ヘッドホンや外部スピーカーの接続

ヘッドホン出力コネクタやライン出力コネクタにヘッドホンや外部スピーカーを接続すると、本機の内蔵モノラルスピーカーの機能は自動的に無効になります。

オーディオ機器の接続

本機の前面と背面には、オーディオ機器を接続するためのコネクタが搭載されています。各コネクタの位置は、次のとおりです。

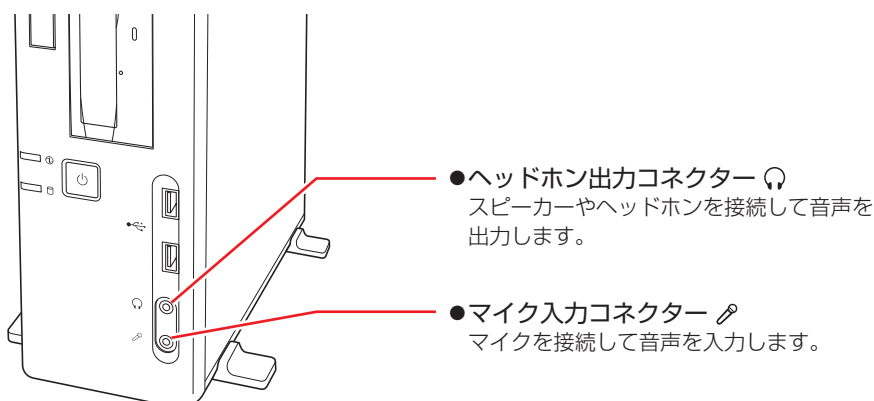


注意

ヘッドホンやスピーカーを使用する場合は、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。

ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

前面側





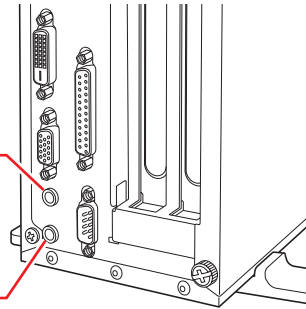
参考

使用できるマイク

マイク入力コネクタに接続して使用できるマイクは、プラグインパワー対応のコンデンサーマイクです。

背面側

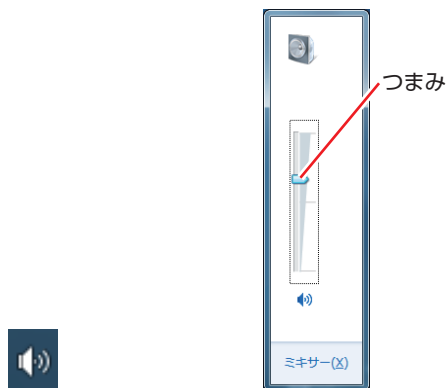
- **ライン入力コネクタ** 
オーディオ機器を接続して音声を入力します。
- **ライン出力コネクタ** 
スピーカーやヘッドホンを接続して音声を出力します。



音量の調節

Windows 起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合は、次の方法で音量を調節します。

画面右下の通知領域に表示されている「スピーカー」アイコン(白色)をクリックすると、「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



<スピーカーアイコン> <ボリュームコントロール>

サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、スピーカーの設定やマイク音量の設定、音響効果の設定などができます。

サウンドユーティリティを起動するには、通知領域 - [△] 内の「Realtek HD オーディオマネージャ」アイコン（赤色）をダブルクリックします。

Windows Vista の場合は、通知領域にアイコンが表示されています。



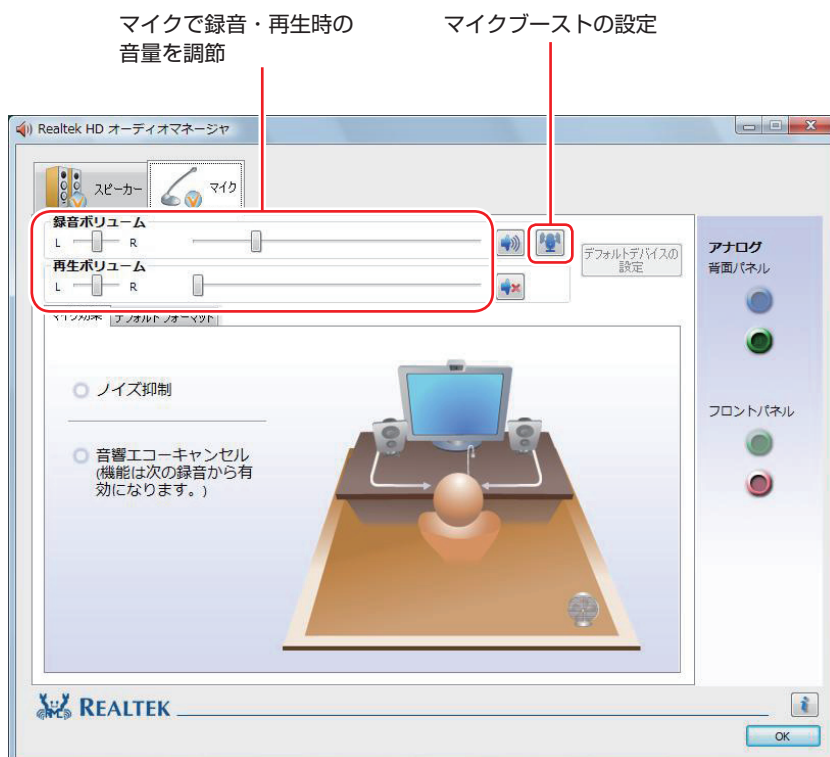
次の画面が表示されます。



※「マイク」タブは、マイク接続時のみ表示されます。

マイク使用時の音量調節

本機にマイクを接続して使用する場合、マイクの音量調節はサウンドユーティリティの「マイク」タブで行います。



※「マイク」タブは、マイク接続時のみ表示されます。

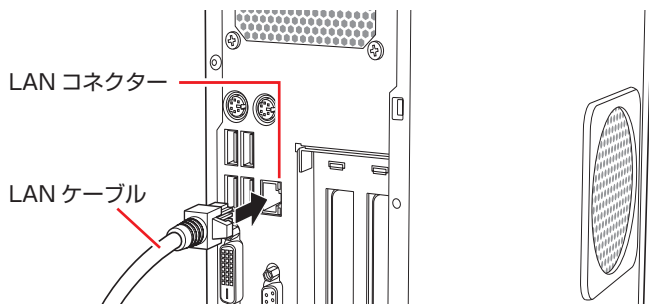
録音時に音量を調節しても音が小さいときは、 をクリックしてマイクブーストのつまみを右へスライドさせ、音量を上げてください。

ネットワーク機能

本機のマザーボード上には、1000 Base-T/100 Base-TX/10 Base-Tに対応したネットワーク機能（LAN 機能）が搭載されています。

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。

ネットワーク機能を使用する場合は、本機背面のLAN コネクタ（品）に市販のLAN ケーブルを接続します。




ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピューターと接続するために、LAN ケーブルやハブ（サーバー）などが必要です。そのほかに、Windows 上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。

ネットワークの構築方法は、ネットワーク機器のマニュアルなどをご覧ください。

！ 制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態になると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - 再起動する
 - 省電力状態に移行しないように設定する
 p.63 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。
- 本機のネットワーク機能では、リピーター・ハブを使用できません。

インターネットへの接続

インターネットへ接続する場合は、 p.52 「インターネットに接続する」をご覧ください。

そのほかの機能

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、次のような機能を使用できます。

Wakeup On LAN

Wakeup On LAN を使用すると、ネットワークからの信号により本機を起動することができます。

シャットダウン状態から起動させる



制限

シャットダウン状態からの起動は、Windows を正常に終了した状態でないと行えません。

シャットダウン状態から Wakeup On LAN を行う場合は、次の設定が必要です。


- BIOS の設定変更
- ネットワークアダプターの設定変更

BIOS の設定変更

「BIOS Setup ユーティリティ」の次の項目を有効にしてください。

「Power」メニュー画面－「APM Configuration」

「Power On By PCIE Devices」：[Enabled]（有効）

 p.88 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.103 「Power メニュー画面」

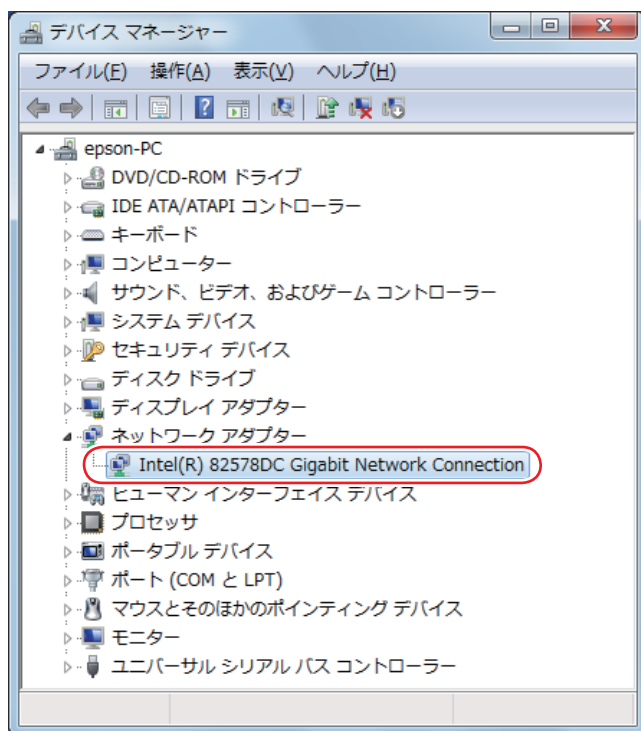
ネットワークアダプターの設定変更

ネットワークアダプターの設定を変更する方法は、次のとおりです。

- 1** 「スタート」－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ（メンテナンス）」－「デバイスマネージャー」をクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、「続行」をクリックします。

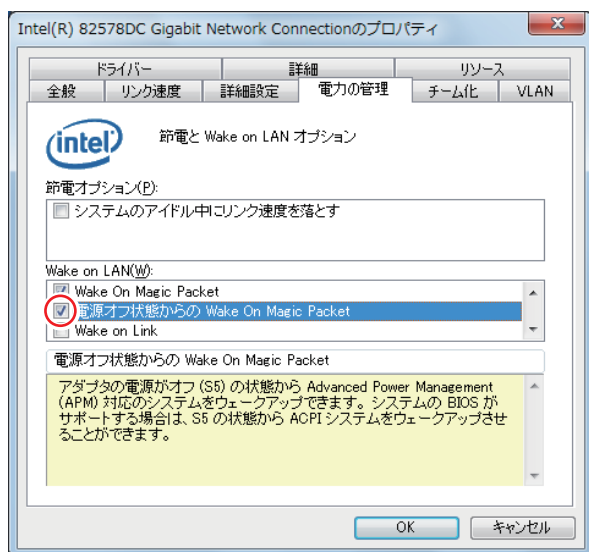


- 3** 表示された「デバイスマネージャー」の「ネットワークアダプター」をダブルクリックし、「Intel (R) 82578DC・・・」をダブルクリックします。



- 4** 表示された「Intel (R) 82578DC・・・」画面の「電力の管理」タブをクリックします。

- 5** 「電源オフ状態からの Wake On Magic Packet」にチェックを入れて [OK] をクリックします。



6 をクリックし、開いている画面をすべて閉じます。

これで、設定は完了です。



参考

WakeUp On LAN を設定している場合

BIOS の設定で、WakeUp On LAN (Power On By PCIE Devices) が有効に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピューターが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。

リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバー上から Windows をインストールすることができます。

インターネットに接続する

インターネットを利用するには、プロバイダーとの契約が必要です。プロバイダーと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順が記載された説明書がプロバイダーより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。



参考

再インストール後のインターネット接続

Windows を再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダーからの説明書はなくさないように大切に保管してください。

Webページを閲覧する

Web ページの閲覧には、Internet Explorer（インターネットエクスプローラー）を使用します。

Internet Explorer の起動方法

Internet Explorer は、次の場所から起動します。

Windows 7 の場合

デスクトップ左下のアイコン



Windows Vista の場合

【スタート】 - 【インターネット】

Internet Explorer の使用方法

Internet Explorer の使用方法は、次の場所をご覧ください。

【Internet Explorer のヘルプ】



【PC お役立ちナビ】 - 【お役立ち】

Internet Explorer で情報バーが表示されたら

Internet Explorer は、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer 使用時、情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。



<イメージ>

Internet Explorer の便利な追加機能

本機には Internet Explorer の便利な機能として、次のソフトウェアが添付されています。

- JWord

Internet Explorer のアドレスバーにキーワードを入力して、検索を行うことができます。

- goo スティック

Internet Explorer ツールバー上の「goo」検索ボックスにキーワードを入力して、検索を行うことができます。

- マカフィー・サイトアドバイザープラス

Web サイトの安全性評価を表示するツールです。「マカフィー・サイトアドバイザープラス」を使用する場合は、Internet Explorer のツールバー上の「McAfee SiteAdvisor」ボタンからユーザー登録を行ってください。

セキュリティソフトウェア「マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版」側でユーザー登録を行った場合、登録は不要です。

電子メールを利用する

電子メールの利用には、次のソフトを使用します。

- Windows Live メール (Windows 7)
- Windows メール (Windows Vista)



参考

Office をインストールしているときは

Office をインストールしている場合は、メールソフト Outlook を使用することもできます。Outlook の使用方法は、Outlook のヘルプをご覧ください。

メールソフトの起動方法

メールソフトは、次の場所から起動します。

Windows 7 の場合

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Live」 - 「Windows Live メール」

Windows Vista の場合

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows メール」

メールソフトの初期設定

メールソフト初回起動時、メールアカウントの設定画面が表示されたら、画面の指示に従ってメールアドレスなどの情報を入力します。必要に応じて、契約したプロバイダーから提供された説明書などをご覧ください。



参考

アカウントの追加や変更

メールアカウントの追加や変更は、次の場所で行います。

Windows 7 の場合

Windows Live メールの画面左側「無料・大容量 Hotmail 作成」

Windows Vista の場合

Windows メールの「ツール」メニュー - 「アカウント」 - [追加] - 「電子メールアカウント」

メールソフトの使用方法

メールソフトの使用方法は、次の場所をご覧ください。

「メールソフトのヘルプ」



「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」

インターネットを使用する際のセキュリティー対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうる、コンピューターウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対する、セキュリティー機能が備えられています。

ここでは、このセキュリティー機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピューターの安全を守るため、必ずセキュリティー対策を行ってください。

Windows Update

「Windows Update」は、本機の Windows の状態を確認し、Windows の更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。

Windows を最新の状態にするため、Windows Update を行ってください。

自動更新の設定

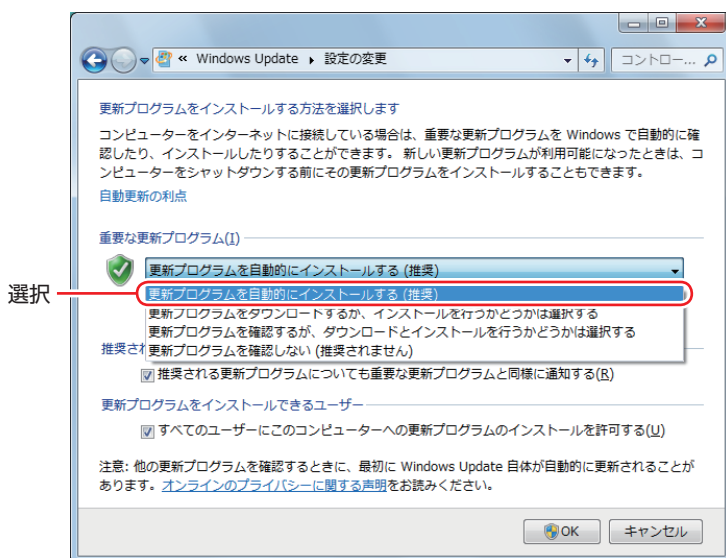
本機を使用する際は、自動で Windows Update が行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。

自動更新の設定がされていると、更新プログラムのダウンロードとインストールが自動で行われます。

Windows のセットアップ中に「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

自動更新の設定は、次の場所で行います。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Update」 - 「設定の変更」



セキュリティソフトウェア

インターネットに接続する場合は、コンピューターウイルス感染や不正アクセスを防ぐため、セキュリティソフトウェアを必ず使用してください。

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能を備えた「マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版」がインストールされています。

※購入時の選択によっては、インストールされていません。

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版の詳細は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－「マニュアルびゅうわ」－「セキュリティソフトウェアをご使用の前に」



サポート情報

正しく動作しない場合など、マカフィー製品に関するご相談については、下記へお問い合わせください。

※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

●マカフィー・インフォメーションセンター

マカフィー製品購入前のマカフィー製品に関するお問い合わせ

マカフィー・サポート Web

<http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/>

E-mail によるお問い合わせフォーム

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/home/info_redirect.asp

電話ナビダイヤル : 0570-010-220

IP 電話、光電話の場合 : 03-5428-1899

受付時間 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く)

●マカフィー・カスタマーオペレーションセンター

対応内容登録方法に関するご相談やお客さま登録情報の変更など

マカフィー・サポート Web

<http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/>

E-mail によるお問い合わせフォーム

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/cs_redirect.asp

電話ナビダイヤル : 0570-030-088

IP 電話、光電話の場合 : 03-5428-1792

受付時間 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く)

●マカフィー・テクニカルサポートセンター

対応内容ソフトウェアの操作方法や不具合などの技術的なお問い合わせ

マカフィー・サポート Web

<http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/>

マカフィー・チャットサポート

<http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/chat.asp>

E-mail によるお問い合わせフォーム

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/supportform_redirect.asp

電話ナビダイヤル : 0570-060-033

IP 電話、光電話の場合 : 03-5428-2279

受付時間 9:00 ~ 21:00 (年中無休)

(FAX によるお問い合わせは受け付けておりません)

市販のセキュリティーソフトウェアを使う

市販のセキュリティーソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版をアンインストール (削除) してください。アンインストール方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅう」 - 「セキュリティーソフトウェアをご使用の前に」

Webフィルタリングソフトウェア

Web フィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを表示しないようにするための技術です。Web フィルタリングを行うと、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。

i-フィルター 30 日版を使う

本機には、Web フィルタリング機能を持つ「i-フィルター 30 日版」が添付されています。家庭内でお子様がコンピューターを使用する際に、有害なサイトへアクセスするのを制限したいときなどは、i-フィルター 30 日版を使用することをおすすめします。

i-フィルター 30 日版のインストール

インストール方法は、[別冊](#)『ユーザーズマニュアル』 - 「i-フィルター 30 日版のインストール」をご覧ください。

市販の Web フィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i-フィルター 30 日版はインストールしないでください。

i-フィルター 30 日版の使用方法

i-フィルター 30 日版をインストールすると、フィルター設定が有効になり、有害サイトにアクセスしようとする時、自動的にブロックされます。

初期設定では、フィルター強度は中学生向けです。フィルター強度は、使用者別に設定できます。必要に応じて、「フィルタリング設定」画面で設定を変更してください。

「フィルタリング設定」画面の表示方法は、次のとおりです。

1 デスクトップ上の「i-フィルター」アイコンをダブルクリックします。



<i-フィルターアイコン>

「i-フィルター・・・」画面が表示された場合は、ユーザー登録が完了していません。ユーザー登録を行ってください。

[別冊](#)『ユーザーズマニュアル』 - 「i-フィルター 30 日版のユーザー登録」

2 「管理パスワードの入力」画面が表示されたら、管理パスワードを入力して [OK] をクリックします。

3 i-フィルター のトップページが表示されたら、「フィルタリング設定」をクリックします。

「フィルタリング設定」画面が表示されます。

i-フィルター 30 日版の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。



参考

ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合は

セキュリティソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i-フィルター 30 日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。


この場合は、「i-フィルター 30 日版」の使用を許可してください。

i-フィルター 30 日版の利用期限

i-フィルター 30 日版の利用期限は、ユーザー登録後 30 日間です。利用期限が過ぎると、フィルター機能が停止します。

継続して利用する場合

継続利用の手続き（有償）をオンラインで行ってください。

 p.60 「i-フィルター 30 日版のサポート」




制限

本機に添付の i-フィルター 30 日版は、「i-フィルター更新パック」で継続利用手続きを行うことはできません。

継続して利用しない場合

i-フィルター 30 日版のアンインストールを行ってください。

i-フィルター 30 日版のアンインストール方法は、デジタルアーツ社のホームページの「よくある質問」をご覧ください。

 p.60 「i-フィルター 30 日版のサポート」

i-フィルター 30日版のサポート

i-フィルター 30日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。
よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。
なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。



<http://www.daj.jp/cs/support.htm>

省電力機能

本機を使用していない間、省電力状態にしておくと、電力の消費を抑えることができます。

省電力状態へ移行する際の注意

省電力状態に移行する際には、次のような注意事項があります。移行する前に確認して正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
 - ・周辺機器を接続している
 - ・ソフトウェアを起動している
- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
 p.63 「時間経過で移行させない」
 - ・光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
 - ・サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
 - ・メモリーカードや外部接続記憶装置（USB FDD など）へのデータ書き込み時：データ破損の可能性
 - ・ネットワーク機能を使つての通信時：通信が切断される可能性
 - ・動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
 - ・省電力状態で周辺機器などの抜き差しを行った場合
 - ・ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
 - ・再起動する
 - ・省電力状態に移行しないように設定する
 p.63 「時間経過で移行させない」

省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

- ディスプレイの電源を切る
省電力の効果はスリープより低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。
- スリープ
作業中の内容を一時的に保存し、コンピューターを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプがオレンジ色に点灯します。通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

スリープには次の2つがあり、作業中の内容の保存方法が異なります。

- ハイブリッドスリープ（初期値）
スリープと休止状態を合わせた状態です。
作業中の内容はメモリーとHDDの両方に保存されます。
- スリープ
作業中の内容はメモリーのみに保存されます。

●休止状態

作業内容をHDDに保存し、コンピューターを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが消灯します。シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

休止状態を有効にする

本機では、休止状態が無効に設定されています。休止状態を有効にするには設定を行ってください。



制限

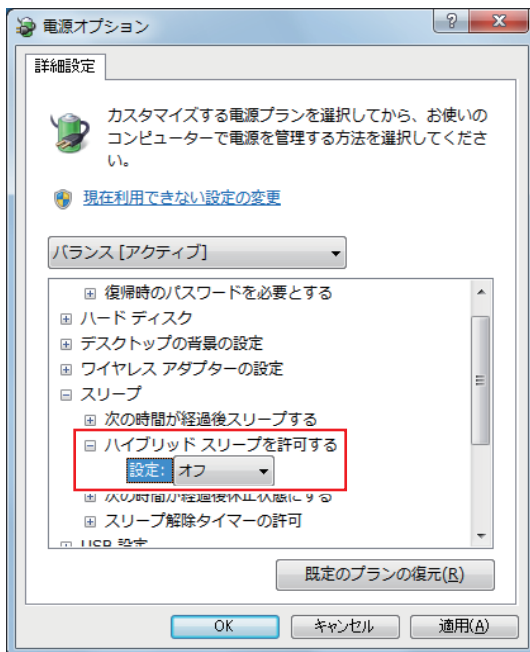
休止状態を有効にすると、スリープの状態がハイブリッドスリープからスリープに変わります。



p.61「省電力状態の種類」

休止状態を有効にする方法は次のとおりです。

- 1** [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「電源オプション」で、休止状態を有効にしたいプランの「プラン設定の変更」をクリックし、「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
- 2** 「スリープ」 - 「ハイブリッドスリープを許可する」を「オフ」に設定します。
- 3** [OK] をクリックします。



省電力状態に移行する方法

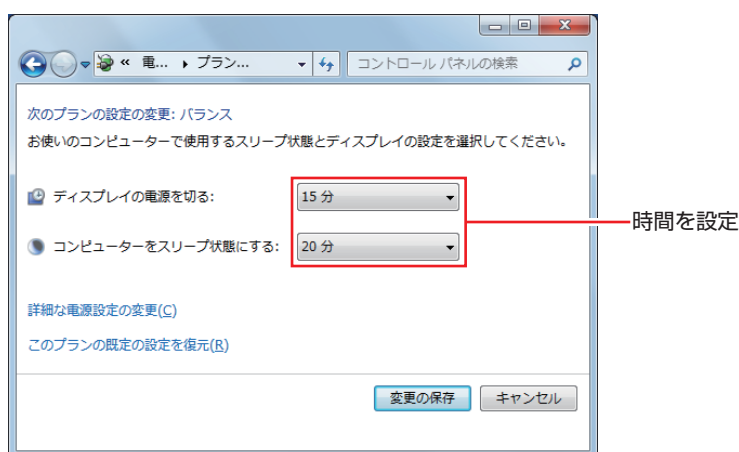
本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピューターを操作しない状態で時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピューターがスリープになります。

省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピューターをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所を変更することができます。

【スタート】－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ（メンテナンス）」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」



時間経過で移行させない

光ディスクメディアに書き込む場合などは、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間をすべて「なし」に設定してください。

直ちに移行する

次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。

操作	省電力状態の種類
【スタート】－ [▶] から項目を選択する	スリープ、休止状態*
< Windows Vista のみ > 【スタート】－ [⏻] をクリックする	スリープ（初期値）

*購入時は表示されません。



電源ランプの表示

本機の電源の状態は、電源ランプ（）で確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常	点灯（緑色）
ディスプレイの電源切	点灯（緑色）
スリープ	点灯（オレンジ色）
休止状態	消灯
シャットダウン（電源切）	消灯


省電力状態からの復帰方法

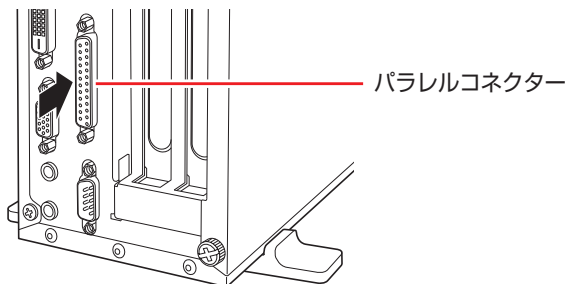
本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源切	点灯（緑色）	マウスやキーボードを操作する
スリープ	点灯（オレンジ色）	<ul style="list-style-type: none">● 電源スイッチを押す● USB キーボードを操作する● USB マウスでクリックする● PS/2 キーボードの設定したキーを押す (BIOS の設定が必要です  p.16)
休止状態	消灯	<ul style="list-style-type: none">● 電源スイッチを押す● PS/2 キーボードの設定したキーを押す (BIOS の設定が必要です  p.16)

その他の機能

パラレルコネクター

本機背面にはパラレルコネクター（）が1個搭載されています。パラレルコネクターには、パラレルコネクターに対応した機器（プリンターやスキャナーなど）を接続します。




本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の項目を変更してください。

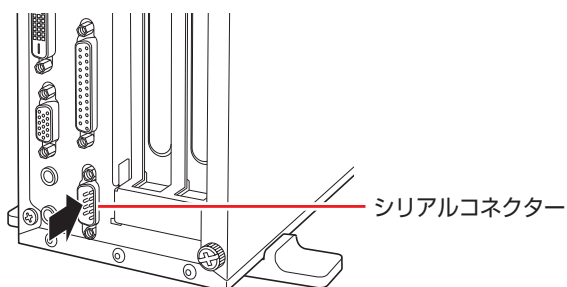
「Advanced」メニュー画面 - 「Onboard Devices Configuration」 - 「Parallel Port Address」

 p.88 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.101 「Advanced メニュー画面」

シリアルコネクター

本機背面にはシリアルコネクター（）が1個搭載されています。シリアルコネクターには、シリアルコネクターに対応した機器（マウスやターミナルアダプターなど）を接続します。



本機のシリアルポートは、COM1 に設定されています。本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。

通常はシリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の項目を変更してください。

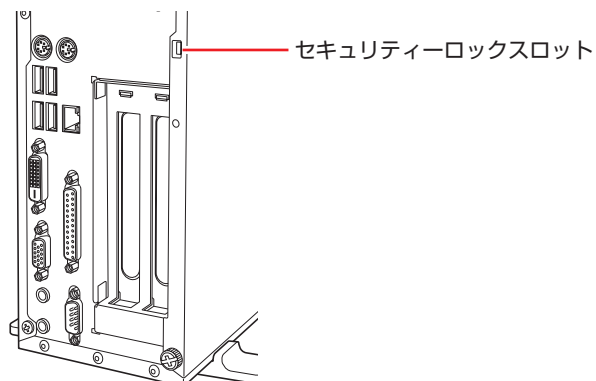
「Advanced」メニュー画面 - 「Onboard Devices Configuration」 - 「Serial Port1」

 p.88 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.101 「Advanced メニュー画面」

セキュリティーロックスロット

本機背面には、セキュリティーロックスロットが搭載されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤー（セキュリティーロック）を取り付けます。



当社では、専用の盗難抑止ワイヤー（セキュリティーロック）を取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。
ホームページのアドレスは次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>

2

装置の増設・交換

拡張ボード、HDD の増設・交換方法について記載しています。

増設・交換できる装置	68
作業時の注意	70
増設・交換の準備作業	71
拡張ボードの装着	74
HDD の装着	79

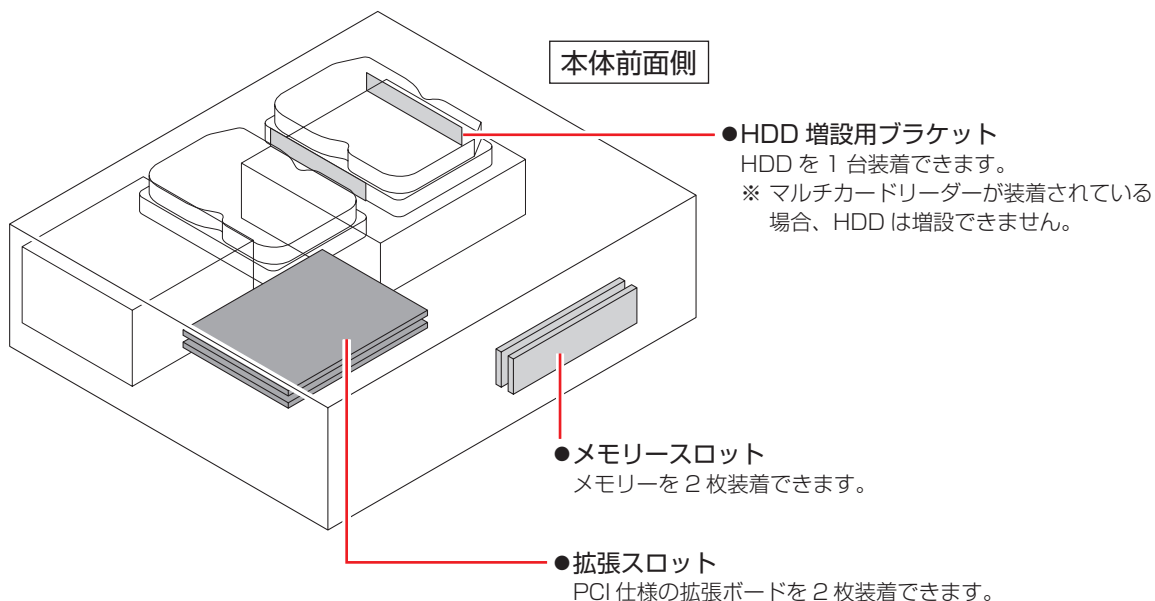
増設・交換できる装置

本機では、次の装置を増設・交換することができます。

ただし、購入時にいくつかの装置がすでに装着されているため、増設できる装置の数は異なります。






マニュアルで方法を記載していない装置の増設・交換は、故障の原因となりますので、行わないでください。



装置の増設・交換方法

装置の増設・交換方法は、次の場所をご覧ください。

メモリー	 別冊「ユーザズマニュアル」 - 「メモリーの装着」
拡張ボード	 p.74 「拡張ボードの装着」
HDD	 p.79 「HDD の装着」

アップグレードサービス

当社では、コンピューター本体をお預かりして装置の増設・交換を行うアップグレードサービスを有償で行っています。

本機では次の装置のアップグレードサービスを利用できます。

- メモリー
- HDD
- 光ディスクドライブ
- マルチカードリーダー

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターにご相談ください。
カスタマーサービスセンターの連絡先は、[別冊](#)『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

作業時の注意

本機内部に装置を装着する場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- 装置の増設・交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- メモリーの切り欠きとメモリスロット内の仕切りは、確実に合わせてください。メモリーの向きを間違えると、正しく装着できません。間違った状態で使用すると、発煙や発火のおそれがあります。



- 本機から周辺機器を必ず取り外してください。
- 取り付けを行う際は、取り付ける装置のマニュアルを必ず参照してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリーや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリーや拡張ボードを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 固定具が確実に閉じていない場合、メモリーがしっかりと固定されていない可能性があります。再度、メモリーの向きを確認し、固定具が確実に閉じるまで、しっかりとメモリーを押し込んでください。
- 装置は落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリーや拡張ボードの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

増設・交換の準備作業

装置の増設・交換を行う場合は次の準備作業が必要です。各装置の増設・交換手順に従って、必要に応じて作業を行ってください。



作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。

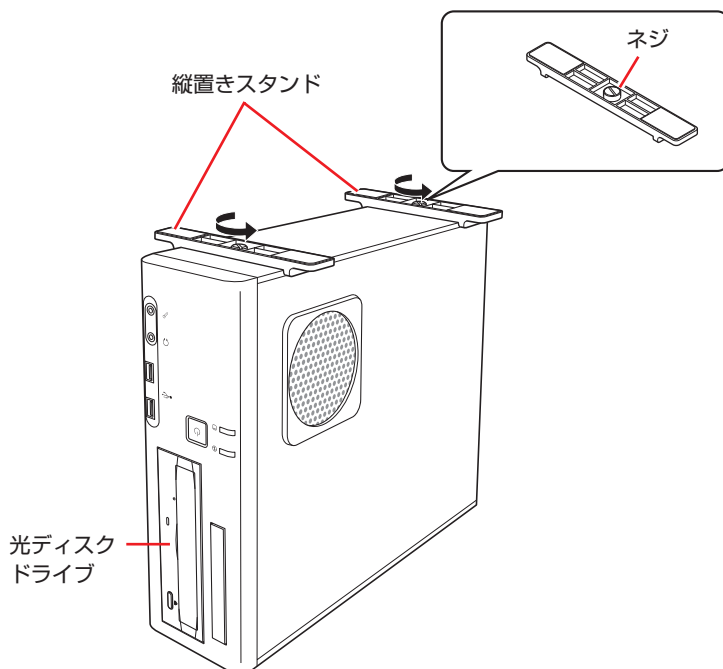
本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着する場合は、本体カバーを外してください。

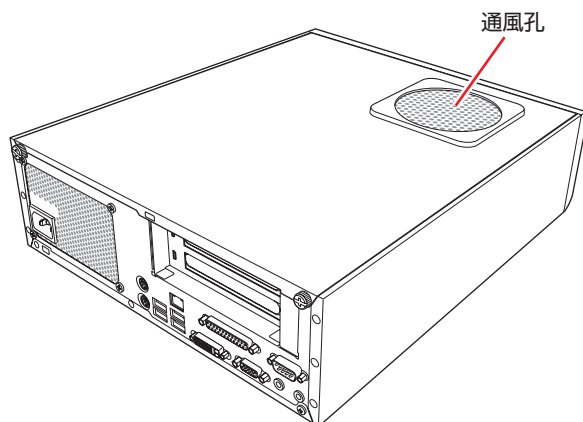
取り外し

本体カバーの取り外し方法は次のとおりです。

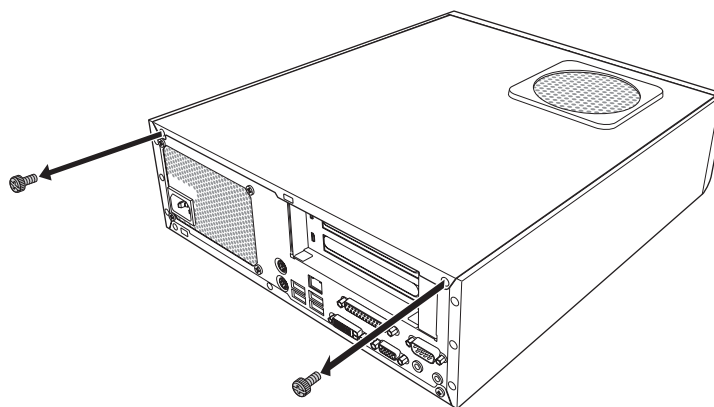
- 1** 本機および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** 本機に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本機を縦置きで使用している場合は、光ディスクドライブを下にして置き、ネジをゆるめて縦置きスタンドを取り外します。



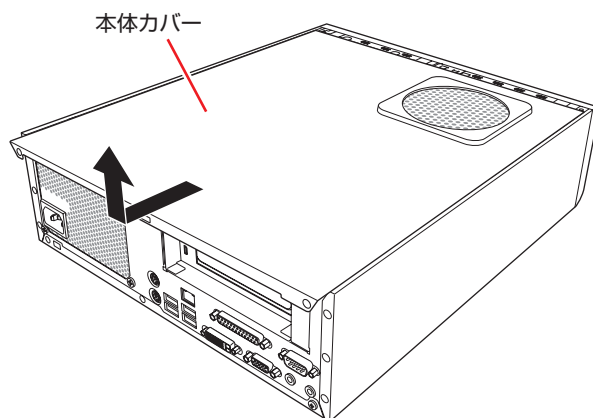
- 4** 通風孔がある側面が上になるように、本体を横置きします。



- 5** 本機背面のネジ（2本）を外します。



- 6** 本体カバーを背面側にスライドさせ、上へ持ち上げて取り外します。

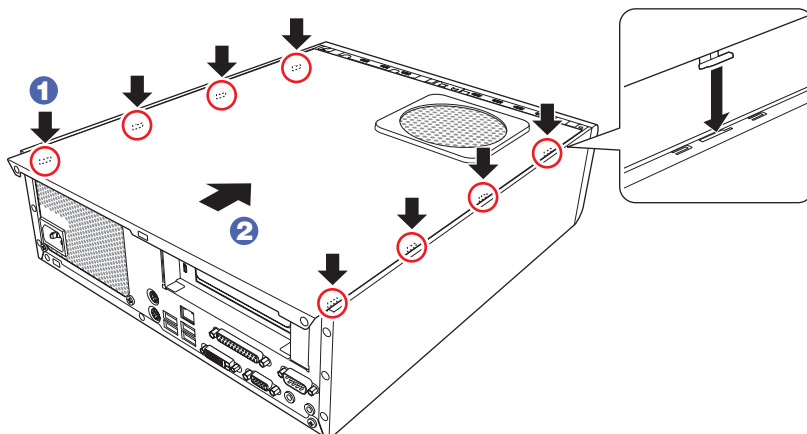


取り付け

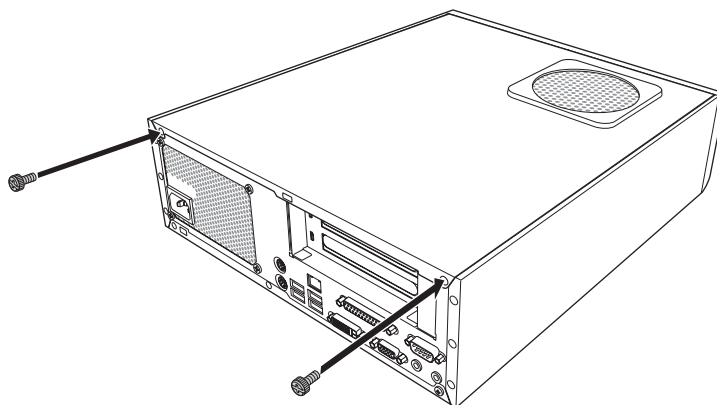
本体カバーの取り付け方法は次のとおりです。

1 本体カバーを取り付けます。

- 1 本体カバーのツメ（上下で8箇所）を、本体の穴にはめ込みます。
- 2 本体背面から前側に向けてスライドします。



2 ネジ（2本）で本機背面と本体カバーを固定します。



3 縦置きで使用する場合は、光ディスクドライブを下にして、縦置きスタンドを取り付けます。

縦置きスタンドを取り付けたら、スタンドを下にして置きます。

4 ケーブル類（電源コードなど）を元どおりに接続します。

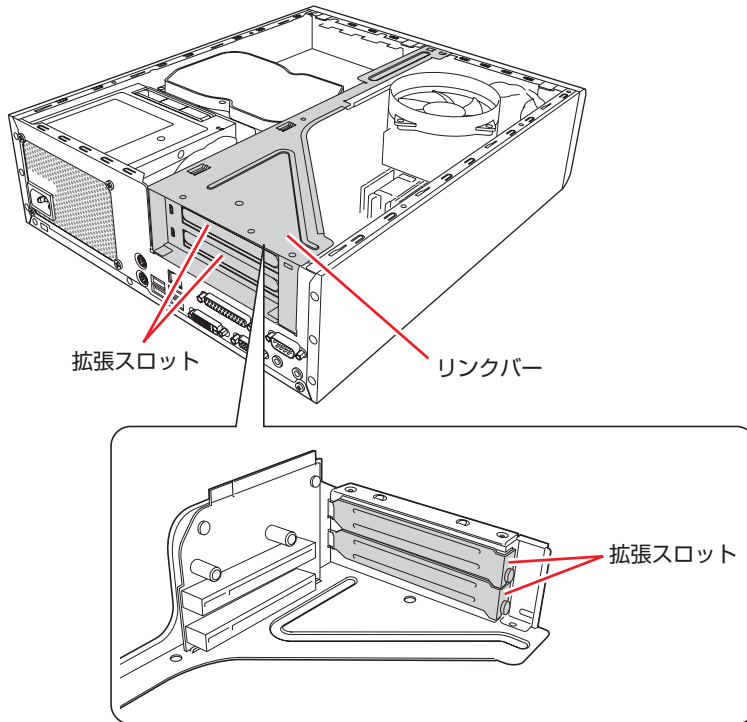
これで本体カバーの取り付けは完了です。

拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と、拡張ボードの取り付け・取り外し方法について説明します。

拡張スロットの仕様

本機のリンクバーには拡張スロットが2つあります。各スロットの仕様は次のとおりです。




コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ
PCI	ボード長：178mm まで

拡張ボードの取り付け・取り外し




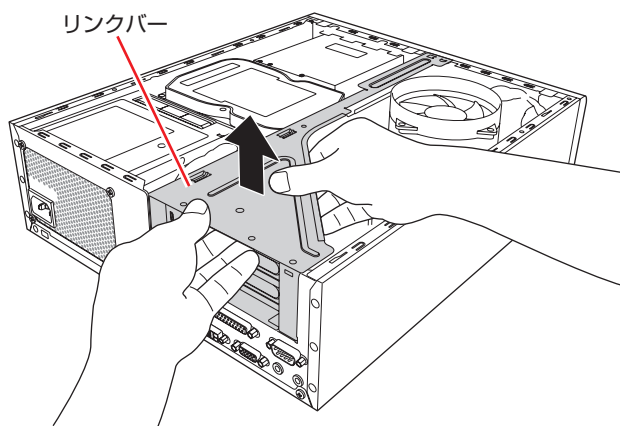
拡張スロットには機器の性能を維持するため鋭いエッジがあります。手を傷つけないように作業してください。

作業を始める前に  p.70「作業時の注意」と拡張ボードのマニュアルを必ずお読みください。作業は、本機を横置きに行います。

取り付け

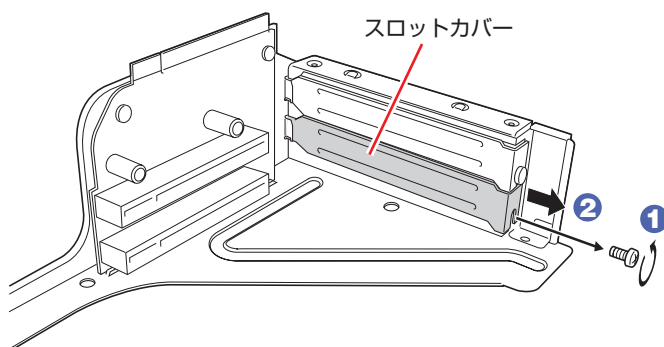
拡張ボードの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** 本機および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** 本機に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.71「本体カバーの取り外し・取り付け」 - 「取り外し」
- 4** リンクバーを取り外します。
下図のとおりに手をかけて、リンクバーを持ち上げます。このとき、周辺の部品やケースの角など、とがった部分で手などを切らないよう注意してください。



5 リンクバーを裏返して置き、装着するスロットのスロットカバーを外します。

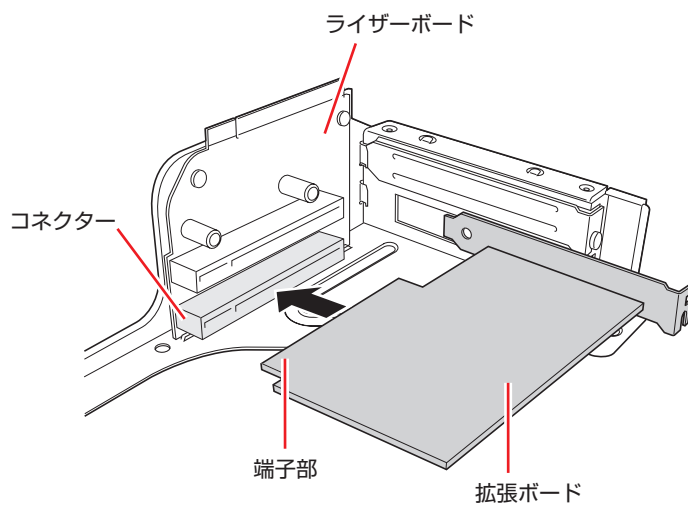
- 1 スロットカバーを固定しているネジを外します。
- 2 スロットカバーを矢印の方向に引き抜きます。



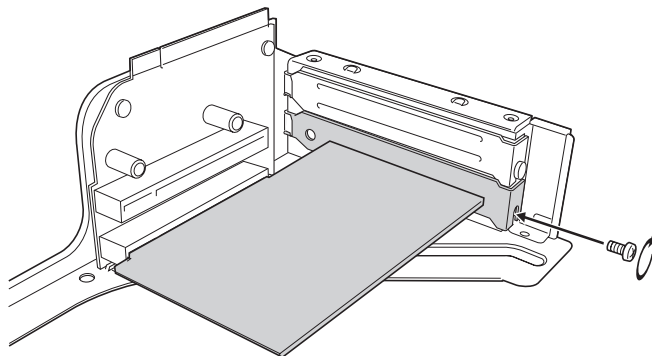
外したスロットカバーは、大切に保管してください。
拡張ボードを外したあと、別の拡張ボードを装着しない場合は、本体内部にホコリなどが入らないように、再びスロットカバーを装着します。

6 拡張ボードを拡張スロットに差し込みます。

拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認し、ライザーボードを手で軽く押さえながら拡張ボードをゆっくり押し込みます。

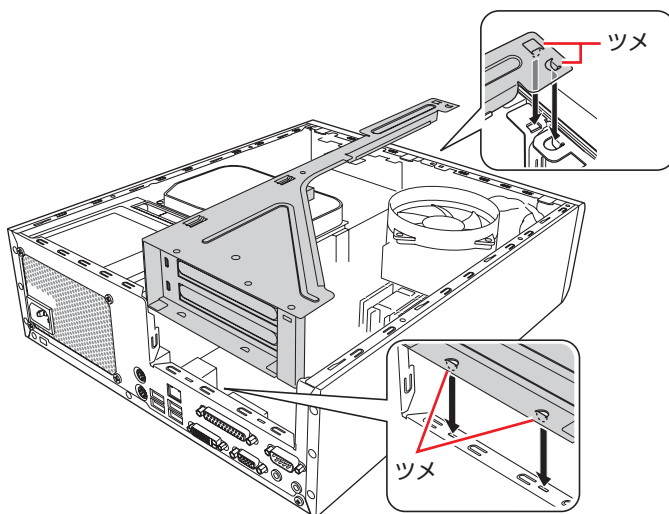


7 拡張ボードをネジで固定します。

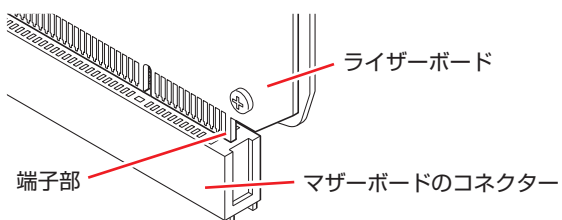


8 リンクバーを元の位置に取り付けます。

- 1 下図のとおりリンクバーと本体の位置を合わせます。
- 2 リンクバーのツメ（細い方に2箇所、太い方に2箇所）をそれぞれ本体側の穴に合わせます。



- 3 ライザーボードの端子部分が、マザーボードのコネクターの位置にあっているか確認します。



- 4 カチッと音がするまでリンクバーを押し込みます。




9 本体カバーを取り付けます。

 p.73 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り付け」

10 **2** で取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

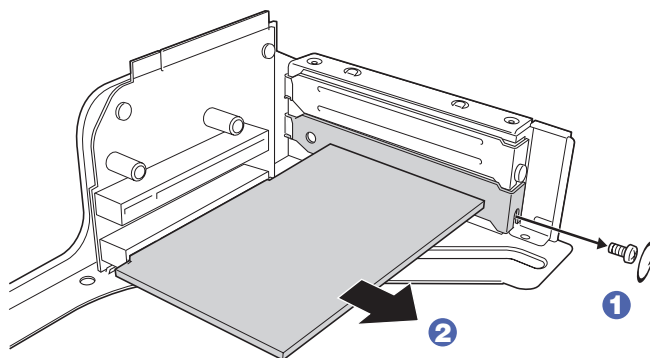
続いて、 p.78 「拡張ボード取り付け・取り外し後の作業」を行います。

取り外し

拡張ボードの取り外しは、 p.76 「取り付け」の **5** ～ **7** を次の手順に読み替えて行ってください。

1 リンクバーを裏返して置き、拡張ボードを取り外します。

- 1** 拡張ボードを固定しているネジを外します。
- 2** 拡張ボードを引き抜きます。



- 2** 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しないときは、スロットカバーを取り付けておきます。

拡張ボード取り付け・取り外し後の作業

拡張ボードによっては、作業が必要な場合があります。詳しくはボードのマニュアルをご覧ください。


HDD の装着

HDD の取り付け・取り外し方法について説明します。

本機には、HDD 増設用ブラケットが搭載されており、シリアル ATA 仕様の HDD を 1 台増設することができます。

マルチカードリーダーが搭載されている場合、HDD の増設はできません。


HDD の取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.70 「作業時の注意」と、機器のマニュアルを必ずお読みください。作業は、本機を横置きに行います。




制限

HDD へのアクセス制限を設定している場合は、解除してから HDD を増設してください。


 p.96 「解除方法」

本機には、増設用ブラケットに HDD を取り付けるためのネジ（4 本）とシリアル ATA ケーブルは添付されていません。

ネジ、ケーブルは当社から購入することができます。 **別冊** 『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

取り付け

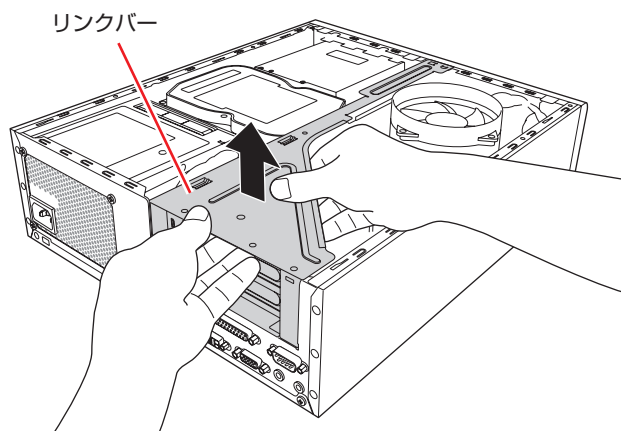
HDD の取り付け方法は次のとおりです。

- 1** 本機および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** 本機に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.71 「本体カバーの取り外し・取り付け」 - 「取り外し」

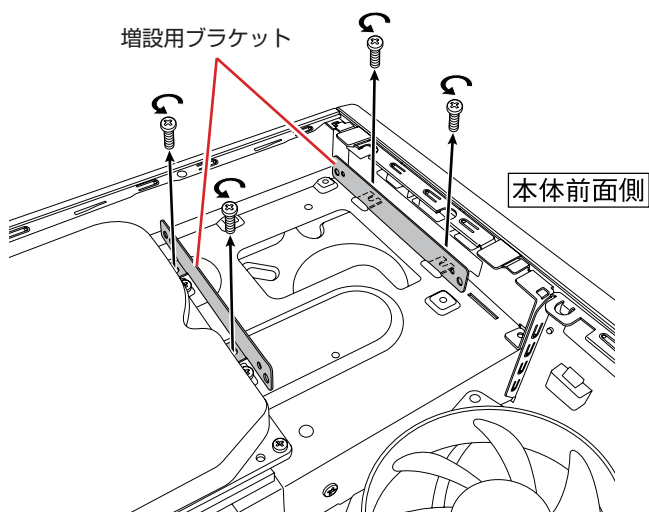


4 リンクバーを取り外します。

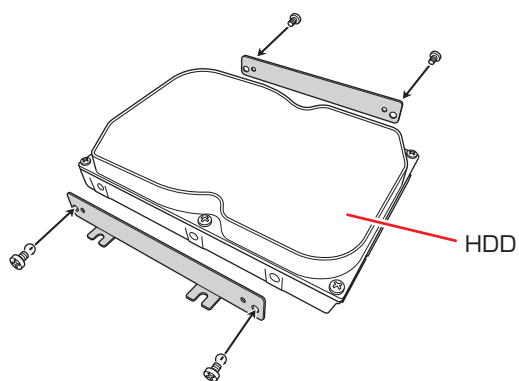
下図のとおりに手をかけて、リンクバーを持ち上げます。このとき、周辺の部品やケースの角など、とがった部分で手などを切らないよう注意してください。



5 ネジ（4本）を外して、増設用ブラケットを取り外します。

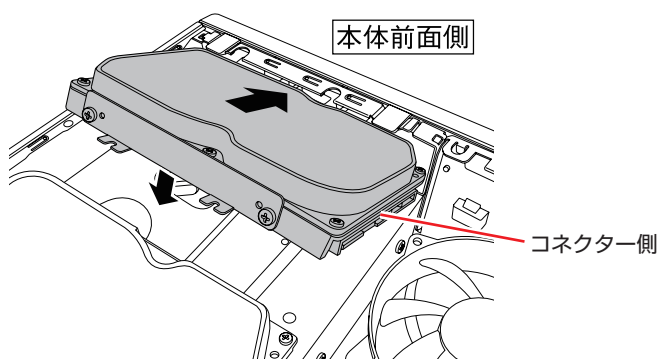


- 6** 用意した HDD に増設用ブラケットを取り付けます。
増設用ブラケットのネジ穴を HDD のネジ穴に合わせて、ネジ（4 本）で固定します。

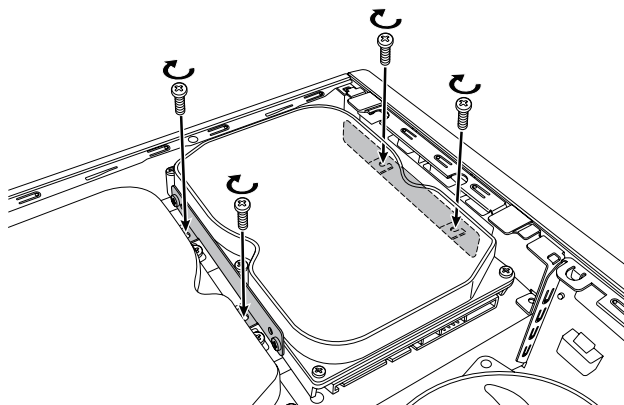


- 7** HDD を本機に取り付けます。

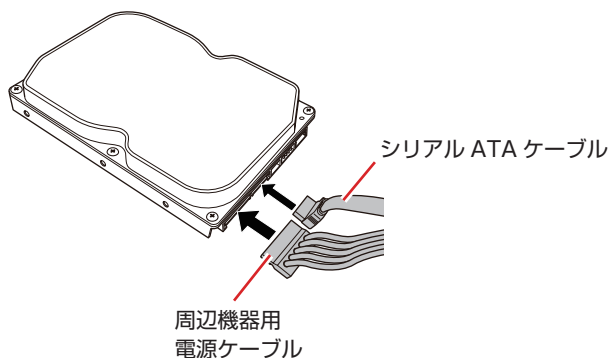
- 1** 増設用ブラケットを取り付けた HDD を本体前面側から先に入れます。



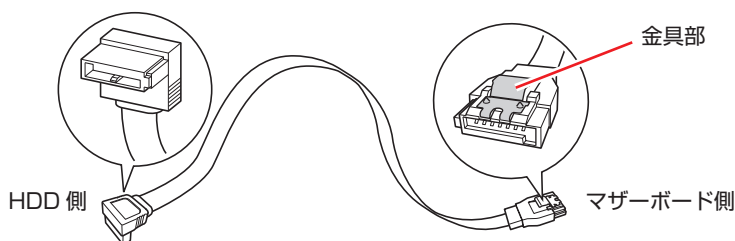
- 2** 増設用ブラケットのネジ穴を本体のネジ穴に合わせて、ネジ（4 本）で固定します。



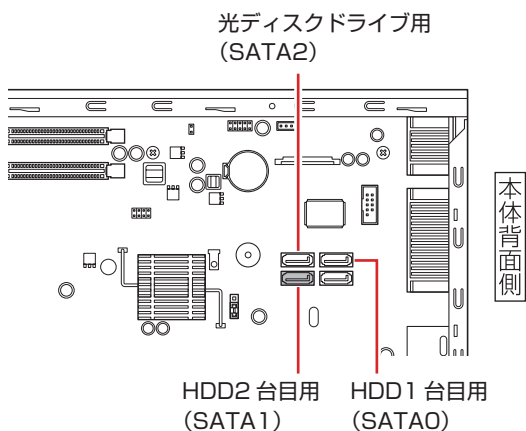
8 取り付けしたHDDに周辺機器用電源ケーブルとシリアルATAケーブルを接続します。



シリアルATAケーブルは、ケーブル両端の形状と各コネクタの向きを確認して接続してください。



9 HDDに取り付けたシリアルATAケーブルをマザーボードに接続します。



10 リンクバーを元の位置に取り付けます。

p.77 「拡張ボードの取り付け・取り外し」 - 「取り付け」 **8**

11 本体カバーを取り付けます。

p.73 「本体カバーの取り外し・取り付け」 - 「取り付け」

12 2で取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続いて、 p.83 「HDD取り付け後の作業」を行います。

取り外し

HDD の取り外しは、[p.80「取り付け」](#)の **5** ~ **9** を次の手順に読み替えて行ってください。

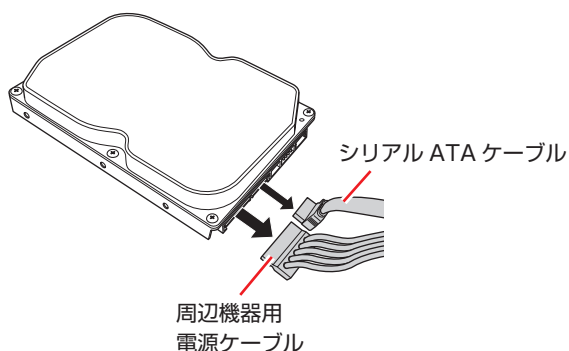


制限

HDD へのアクセス制限を設定している場合は、解除してから HDD を取り外してください。

[p.96「解除方法」](#)

1 HDD から周辺機器用電源ケーブルとシリアル ATA ケーブルを外します。



HDD を取り外した状態で本機を使用する場合は、シリアル ATA ケーブルをマザーボードから取り外します。

マザーボードからシリアル ATA ケーブルを取り外す際は、コネクターの金具部をつまんだ状態で引き抜いてください。

2 HDD を取り外します。

- 1 増設用ブラケットを固定しているネジ（4 本）を外し、本機から HDD を取り外します。
- 2 ネジ（4 本）を外して、HDD から増設用ブラケットを取り外します。

3 増設用ブラケットを本機に取り付けておきます。

HDD取り付け後の作業

HDD を取り付けたら、次の作業を行ってください。

HDD を取り付け場合は、[p.118「HDD 領域（パーティション）の作成手順」](#)をご覧ください。なり、ドライブの作成を行ってください。



3

BIOS の設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について記載しています。

BIOS の設定を始める前に.....	86
BIOS Setup ユーティリティの操作.....	87
BIOS Setup ユーティリティの設定項目	99

BIOS の設定を始める前に



制限

当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOS は、コンピューターの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、マザーボード上に ROM として搭載されています。

BIOS の設定は「BIOS Setup ユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOS の設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- マザーボード上の機能を有効 / 無効にする場合

BIOS の設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

BIOS Setup ユーティリティで変更した内容は CMOS RAM と呼ばれる特別なメモリー領域に保存されます。このメモリーはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setup ユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約3年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。


 p.121 「リチウム電池の交換」

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す。

万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.99 「BIOS Setup ユーティリティの設定項目」

- 初期値や、前回保存した設定値に戻す。

 p.92 「設定値を元に戻す」

BIOS Setup ユーティリティの操作

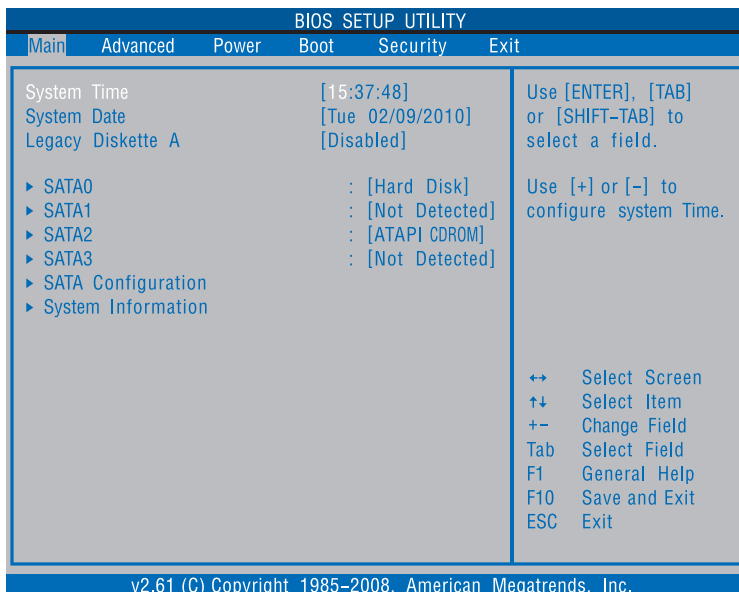
ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- ユーザー設定値を保存する
- パスワードを設定する
- HDD アクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **Delete** の位置を確認してください。**2** では、すばやく **Delete** を押す必要があります。

- 1** 本機の電源を入れます。
すでに Windows が起動している場合は、再起動します。
- 2** 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの **Delete** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
Windows が起動してしまった場合は、再起動して **2** をもう一度実行してください。
- 3** 「BIOS Setup ユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。



< BIOS Setup ユーティリティ画面（イメージ） >

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合は、本機の電源を入れたときに、次のメッセージが表示されることがあります。


CMOS Checksum Bad
Press F1 to Run SETUP

このメッセージが表示されたら **[F1]** を押して BIOS Setup ユーティリティを起動します。通常は、そのまま「Exit & Save Changes」を実行して BIOS Setup ユーティリティを終了します。

 p.91 「BIOS Setup ユーティリティの終了」

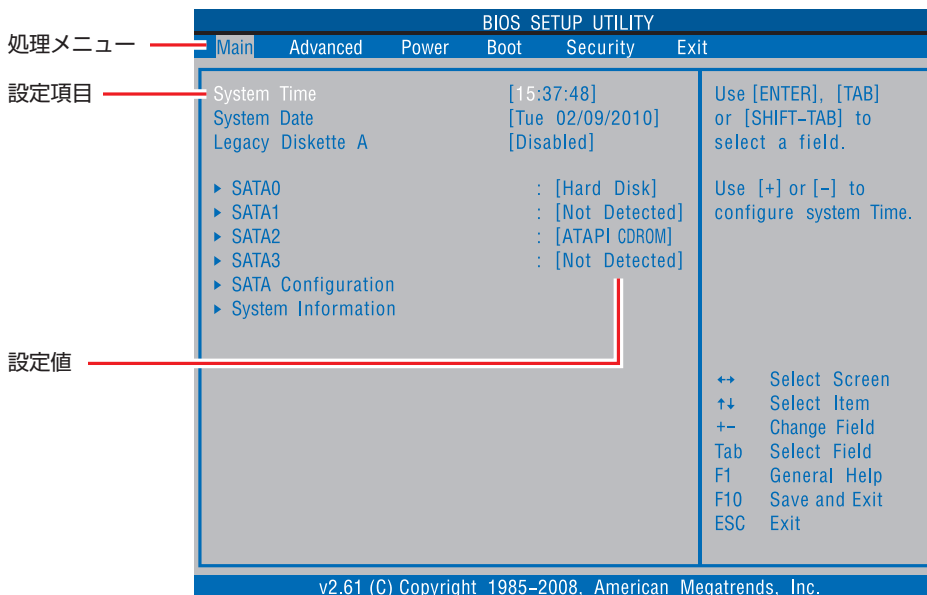
BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setup ユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。各メニュー画面と設定項目の説明は、 p.99 「BIOS Setup ユーティリティの設定項目」をご覧ください。

画面の構成

BIOS Setup ユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。



<メニュー画面>

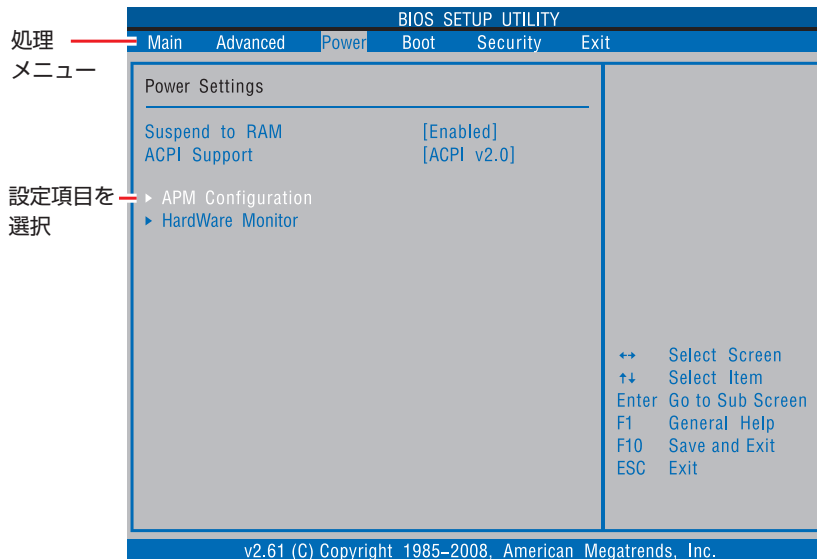
操作方法

BIOS Setup ユーティリティの操作方法は次のとおりです。

- 1 処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

→ ← でメニュー間を移動します。

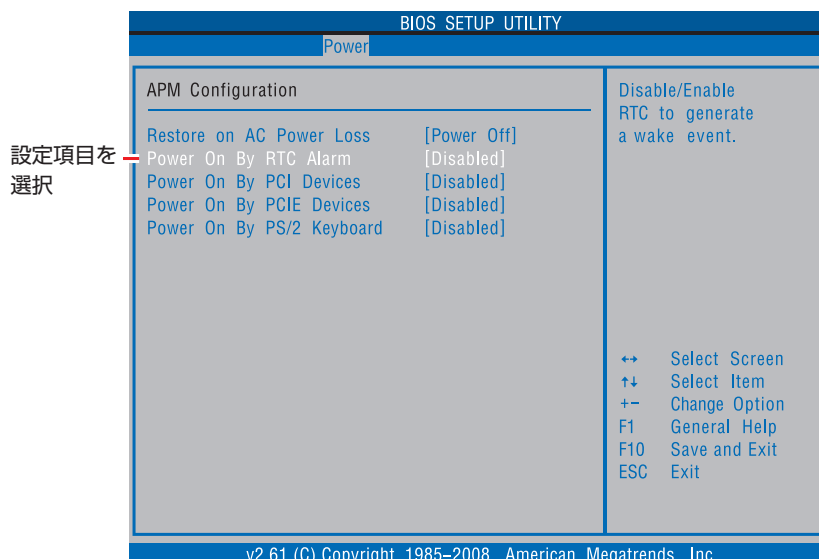
↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。



<メニュー画面>

▶ のある項目の場合

▶ のある項目の場合、← を押すとサブメニュー画面が表示されます。↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。



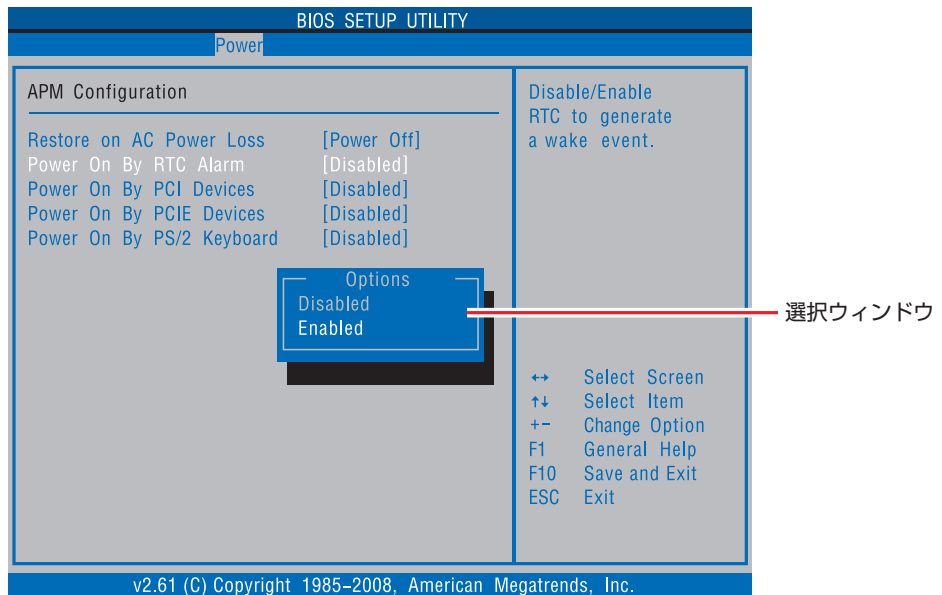
<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻るには [Esc] を押します。



2 設定値を変更します。

← を押して選択ウィンドウを表示し、↑ ↓ で値を選択し ↵ で決定します。



キー操作

BIOS の画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
Esc	<ul style="list-style-type: none">変更した内容を破棄し、終了します。サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑, ↓	設定を変更する項目を選択します。
←, →	処理メニューを選択します。
-, +	項目の値を変更します。
↵	<ul style="list-style-type: none">メニュー画面中の ▶ のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。選択項目の選択ウィンドウを表示します。設定値を選択します。
F1	ヘルプを表示します。
F5	全設定項目の値を、BIOS の初期値に戻します。
F7	変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。

BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setup ユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Exit & Save Changes (変更した内容を保存し終了する)

変更した設定値を保存して、BIOS Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **F10** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit setup? [OK] [Cancel]

- 2 **OK** を選択し、**Enter** を押します。
「BIOS Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。

Exit & Discard Changes (変更した内容を破棄し終了する)

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **Esc** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard changes and exit setup? [OK] [Cancel]
--

- 2 **OK** を選択し、**Enter** を押します。
「BIOS Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。

設定値を元に戻す

「BIOS Setup ユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一、本機の動作が不安定になってしまった場合などには、設定値を BIOS の初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup Defaults (BIOS の初期値に戻す)

設定値を BIOS の初期値に戻す方法は、次のとおりです。

※「Security」メニュー画面の項目を BIOS の初期値に戻すことはできません。

- 1 **F5** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。



- 2 **Ok** を選択し、**Enter** を押します。
これで設定値が「BIOS の初期値」に戻ります。

Discard Changes (前回保存した設定値に戻す)

設定値を前回保存した値に戻す方法は、次のとおりです。

- 1 **F7** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。



- 2 **Ok** を選択し、**Enter** を押します。
これで設定値が「前回保存した値」に戻ります。

ユーザー設定値を保存する

「BIOS Setup ユーティリティ」の設定値を変更した場合、その状態を「ユーザー設定値」として保存しておくことができます。ユーザー設定値を保存しておく、と、「Load Setup Defaults」やリチウム電池の脱着を行って、設定値が「BIOS の初期値」になってしまった場合などに、「ユーザー設定値」に戻すことができます。


Save User Define (ユーザー設定値を保存する)

設定値を「ユーザー設定値」として保存する方法は、次のとおりです。

- 1 BIOS Setup ユーティリティの設定値を変更します。

- 2** 「Exit」メニュー画面－「Save User Define」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save User Define?	
[OK]	[Cancel]


- 3** [OK] を選択し、 を押します。
これで設定値が保存されます。

Load Setup User Define (ユーザー設定値に戻す)

設定値を「ユーザー設定値」に戻す方法は、次のとおりです。
※「Save User Define」で設定値を保存後、実行可能になります。

- 1** 「Exit」メニュー画面－「Load Setup User Define」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Load Setup User Define?	
[OK]	[Cancel]

- 2** [OK] を選択し、 を押します。
これで設定値が「ユーザー設定値」に戻ります。

パスワードを設定する


「Security」メニュー画面でパスワードを設定すると、BIOS や Windows の起動時にパスワードを要求されるようになります。
パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき
(HDD アクセス制限など)

パスワードの種類

パスワードには次の2種類があります。

- Supervisor Password (管理者パスワード)
コンピューターの管理者用のパスワードです。管理者パスワードで BIOS にログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
- User Password (ユーザーパスワード)
一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードで BIOS にログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます (権限は、設定変更することができます)。

 p.94 「ユーザーパスワードの権限設定」

パスワードの設定方法

パスワードの設定方法は、次のとおりです。
管理者パスワードを設定すると、ユーザーパスワードが設定できるようになります。



設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOS の設定変更や、設定によっては Windows の起動ができなくなります。


- 1 「Security」メニュー画面－「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password:


- 2 パスワードを入力し、 を押します。


「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。パスワードとして使用できるのは英数字だけです。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは 8 文字まで入力可能です。

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。

Confirm New Password:

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match !」というメッセージが表示されます。[Ok] が選択された状態で  を押すと、BIOS のメニュー画面に戻ります。この場合、手順 1 からやりなおしてください。


- 4 「Password installed.」というメッセージが表示されたら、[Ok] が選択された状態で  を押します。

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。

続いて、「ユーザーパスワードの権限」や、「どこでパスワードを要求するか」を決めて設定します。

ユーザーパスワードの権限設定


ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードで BIOS にログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。

 p.105 「Security メニュー画面」－「User Access Level」

管理者パスワードが設定されていないと権限変更はできません。権限を変更するときは、あらかじめ管理者パスワードを設定しておいてください。

パスワード入力タイミングの設定


BIOS Setup ユーティリティ起動時や、Windows 起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

 p.105 「Security メニュー画面」 – 「Password Check」


管理者パスワードの削除方法

管理者パスワードの削除方法は、次のとおりです。

管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードで BIOS にログオンしてください。

- 1 「Security」メニュー画面 – 「Change Supervisor Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password

- 2 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled.

[OK]


- 3 [OK] が選択された状態で  を押します。

「Supervisor Password」の表示が「Not Installed」に変わります。

これで管理者パスワードが削除されました。

ユーザーパスワードの削除方法

ユーザーパスワードの削除方法は、次のとおりです。

- 1 「Security」メニュー画面 – 「Clear User Password」を選択して、 を押すと、次の画面が表示されます。

Clear User Password ?

[OK]

[Cancel]

- 2 [OK] を選択して、 を押します。

「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。

これでユーザーパスワードが削除されました。

HDDアクセス制限

HDD アクセス制限を設定すると、次の状態になります。

- BIOS や Windows 起動時、休止状態からの復帰時に管理者パスワードを要求されるようになる
- HDD をほかのコンピューターに接続した場合、認識されないようになる

HDD への無断アクセスや、万が一 HDD が盗難にあった場合の情報流出を防ぎたいときは、HDD アクセス制限を設定します。

HDD アクセス制限の設定方法

HDD アクセス制限の設定方法は次のとおりです。

制限

- パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定した HDD は使用できなくなります。登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。
- HDD を増設・交換する際は、HDD へのアクセス制限を解除した状態で行ってください。

1 管理者パスワードを設定します。

 p.94 「パスワードの設定方法」

2 HDD アクセス制限の設定をします。

「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を [Enabled] に設定します。

 p.105 「Security メニュー画面」

解除方法

HDD アクセス制限の解除方法は次のとおりです。

1 「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を [Disabled] に設定します。

 p.105 「Security メニュー画面」

起動(Boot)デバイスの順番を変更する

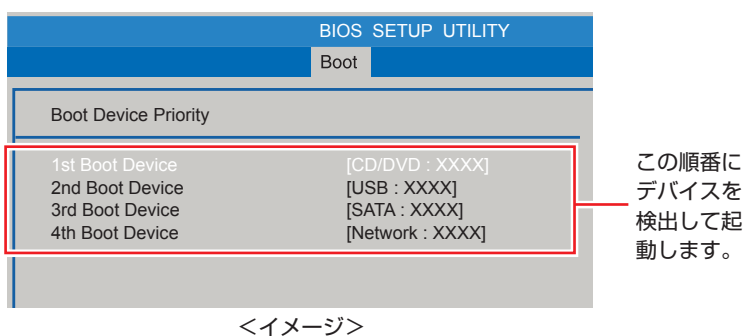
本機の電源を入れて起動しようとしたときに、USB 記憶装置 (USB フラッシュメモリーや USB HDD など) を接続していたり、USB FDD に FD がセットされていると、Windows が起動しないことがあります。

このような場合、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定されている起動 (Boot) デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動 (Boot) デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピューターは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム (Windows や OS) から起動します。

起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面ー「Boot Device Priority」で行います。



「Boot Device Priority」には、接続 (設定) されているデバイスが表示されます。

- CD/DVD:XXXX (接続されている光ディスクドライブの型番)
- USB:XXXX (USB FDD や USB フラッシュメモリーなどの型番)
- SATA:XXXX (接続されている HDD の型番)
- Network:XXXX (ネットワーク)
- Disabled (検出するデバイスを割り当てないときに設定します)

起動 (Boot) デバイスの順番の変更方法



起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここでは USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動できるように、1 番目に起動するドライブを光ディスクドライブ、2 番目に起動するドライブを HDD に設定する方法を説明します。

1 「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択し、 を押します。

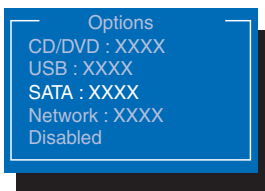
2 サブメニュー画面が表示されたら、現在の起動の順番を確認します。

3 HDD の順番を 2 番目に設定します。

1   で「2nd Boot Device」(2 番目) を選択し、 を押します。

2 選択ウィンドウが表示されたら、  で「SATA:XXXX」を選択し、 を押します。

HDD の順番が 2 番目になります。



<選択ウィンドウ>

4  を押して BIOS Setup ユーティリティを終了します。

 p.91 「BIOS Setup ユーティリティの終了」

これで、起動デバイスの変更は完了です。


BIOS Setup ユーティリティの設定項目

ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法について説明します。
BIOS Setup ユーティリティには、次の6つのメニューがあります。

- Main メニュー画面
日付、時間、HDD などの設定を行います。
- Advanced メニュー画面
CPU に関する設定、I/O 関係の動作設定や PCI バス関係の設定などを行います。
- Power メニュー画面
省電力機能や起動に関する設定を行います。
- Boot メニュー画面
システムを起動するドライブの設定や本機の動作状態の設定などを行います。
- Security メニュー画面
パスワードやセキュリティに関する設定を行います。
- Exit メニュー画面
BIOS Setup ユーティリティを終了したり、BIOS の設定値を初期値に戻したりします。

Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間、HDD などの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

 は初期値
*は項目表示のみ

System Time	時刻を設定します。(時間：分：秒) の順で表示されます。
System Date	日付を設定します。(曜日 月 / 日 / 年) の順で表示されます。
Legacy Diskette A	FDD の設定をします。 Disabled : FDD 未搭載時 1.44MB,3.5in : FDD 搭載時

SATA 0 / SATA 1 / SATA 2 / SATA 3	シリアル ATA 装置の設定をします。 ※表示される詳細項目は、選択するドライブにより異なります。
* Device	シリアル ATA 装置の種類を表示します。
* Vender	シリアル ATA 装置の型番を表示します。
* Size	HDD の容量を表示します。
* F/W	シリアル ATA 装置のファームウェアのバージョンを表示します。
* LBA Mode	LBA (Logical Block Addressing) のサポート状態を表示します。
* PIO Mode	シリアル ATA 装置の PIO 転送モードを表示します。
* DMA Mode	HDD の DMA 転送モードを表示します。
* SMART Monitoring	S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) の状態を表示します。
Type	シリアル ATA 装置の仕様を設定します。 Auto : BIOS が自動的にシリアル ATA 装置の仕様を設定します。 Not Installed : シリアル ATA 装置を使用しない場合に選択します。
LBA / Large Mode	LBA (Logical Block Addressing) を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Auto : 使用します。
Block Mode	一度に何セクター転送できるかを表示します。 Disabled : 使用しません。 Auto : BIOS が自動的に最適な速度を設定します。
PIO Mode	シリアル ATA 装置の PIO 転送モードを設定します。 初期値 [Auto] のままで使用します。
DMA Mode	シリアル ATA 装置の DMA 転送モードを設定します。 初期値 [Auto] のままで使用します。
SMART Monitoring	初期値 [Disabled] のままで使用します。
32Bit Data Transfer	32Bit データ転送を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
SATA Configuration	シリアル ATA HDD の設定をします。
Configure SATA as	シリアル ATA HDD の動作モードを設定します。 初期値 [Standard IDE] のままで使用します。
Standard IDE Mode	Configure SATA as を [Standard IDE] に設定すると表示されます。 Standard IDE のモードを設定します。 初期値 [Enhanced Mode] のままで使用します。
System Information	本機の仕様を表示します。
AMI BIOS	BIOS の情報を表示します。
* Version	BIOS のバージョンを表示します。
* Build Date	BIOS のバージョンの制定日を表示します。
System Memory	本機に搭載されているメモリー容量の情報を表示します。
* Installed Memory	本機に搭載されているメモリー容量を表示します。
* Usable Memory	本機で使用できるメモリー容量を表示します。 4GB 以上メモリーを搭載した場合、3256MB 以上は表示されません。これは BIOS の表示上の制限であり、不具合ではありません。

Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。

設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値

*は項目表示のみ




CPU Configuration	本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。
* Manufacturer	メーカーを表示します。
* Brand String	型番を表示します。
* Frequency	周波数を表示します。
* Cache L1	CPUのL1 キャッシュ容量を表示します。
* Cache L2	CPUのL2 キャッシュ容量を表示します。
* Cache L3	CPUのL3 キャッシュ容量を表示します。
* CPUID	CPU IDを表示します。
* Ratio Status	CPUクロックの値を表示します。
* Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率を表示します。
Hyper Threading Technology	ハイパースレディング機能の有効/無効を設定します。 ハイパースレディング機能を持つプロセッサ搭載時のみ表示されます。 Enabled : 有効にします。 Disabled : 無効にします。
Virtualization Technology	Intel Virtualization Technology 機能の有効/無効を設定します。 Virtualization Technology 機能を持つプロセッサ搭載時のみ表示されます。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Turbo Boost Technology	ターボブースト機能の有効/無効を設定します。 ターボブースト機能を持つプロセッサ搭載時のみ表示されます。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Onboard Devices Configuration	マザーボード上のデバイスに関する設定を行います。
Onboard Audio	マザーボード上のサウンド機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
AUX Disable/Enable	「Onboard Audio」を「Enabled」に設定すると表示されます。 マザーボード上のAUX_Inコネクタを使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Onboard LAN	マザーボード上のネットワーク機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。 「Enabled」に設定して再起動すると、「Boot」メニュー画面-「Boot Device Priority」に「4th Boot Device」として表示されます。

Serial Port 1	シリアルポート 1 のアドレスと IRQ 信号を設定します。 Disabled : シリアルポートを使用しません。 3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3
Serial Port 2	シリアルポート 2 のアドレスと IRQ 信号を設定します。 Disabled : シリアルポートを使用しません。 3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3
Parallel Port Address	パラレルポートのアドレスと IRQ 信号を設定します。 Disabled : パラレルポートを使用しません。 378/IRQ7, 278/IRQ5, 3BC/IRQ7
Parallel Port Mode	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 Normal : 標準の設定です。 Bi-Directional : EPP+ECP モードまたは双方向モードに設定します。 ECP : ECP モードに設定します。 EPP : EPP モードに設定します。
ECP Mode DMA Channel	「Parallel Port Mode」を [ECP] に設定すると表示されます。 初期値 [DMA3] のままで使用します。
EPP Version	「Parallel Port Mode」を [EPP] に設定すると表示されます。 初期値 [1.9] のままで使用します。
USB Configuration	USB コントローラーの設定をします。
USB FUNCTION	初期値 [Enabled] のままで使用します。
Legacy USB Support	初期値 [Enabled] のままで使用します。
USB2.0 Controller	USB の転送速度を設定します。 Disabled : USB 1.1 の転送速度で使用します。 Enabled : USB2.0 の転送速度で使用します。
USB2.0 Controller Mode	初期値 [HiSpeed] のままで使用します。
USB Mass Storage Device Configuration	接続している USB 機器やマルチカードリーダーの型番が表示されます。

Powerメニュー画面


「Power」メニュー画面では、省電力機能や起動に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値
* は項目表示のみ

ACPI Support	初期値 [ACPI v2.0] のままで使用します。
APM Configuration	起動する方法や条件を設定します。
Restore on AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピューターの同時起動を行うと、コンピューターの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Power Off : 電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power On : 電源オフ時に、電源スイッチを押さなくても、電源が供給されるとコンピューターが起動します。 Last State : コンピューターの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断されたあとに電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピューターが起動します。コンピューターを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピューターは起動しません。
Power On By RTC Alarm	コンピューターを指定した時間に起動させる設定をします。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。
RTC Alarm Date Hour Minute Second	[Power On By RTC Alarm] を [Enabled] に設定すると表示されます。 起動する日時を設定します。
Power On By PCI Devices	電源切断時、PCI 接続のネットワークから起動するかどうかを設定します。この機能は、Windows を正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。
Power On By PCIE Devices	電源切断時、マザーボード上のネットワーク (PCI Express 接続) から起動するかどうかを設定します。この機能は、Windows を正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。
Power On By PS/2 Keyboard	PS/2 キーボードを使用している場合に、起動 / 復帰をキーボードで行えるようにするかどうかを設定します。 Enabled : 設定します。 Disabled : 設定しません。
Wake up Key Select	Power On By PS/2 Keyboard を [Enabled] に設定すると表示されます。 起動 / 復帰に使用する PS/2 キーボードのキーを設定します。 Ctrl + ESC :  +  を使用します。 Power Key : Power キー () が搭載されている場合、Power キー () を使用します。
Fan Control	ファンを制御します。
CPU Fan Control	CPU ファンを制御します。 初期値 [Enabled] のままで使用します。
CPU Fan Ratio	CPU ファンの回転率を設定します。 初期値 [20%] のままで使用します。

Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。


Boot 順番の変更方法については、 p.97 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。

は初期値

*は項目表示のみ














Boot Device Priority	システムを起動するドライブの順番を設定します。
1st Boot Device	1 番目に起動するドライブを設定します。 初期値は搭載されている光ディスクドライブの型番が表示されます。
2nd Boot Device	2 番目に起動するドライブを設定します。 初期値は接続している USB 機器の型番が表示されます。
3rd Boot Device	3 番目に起動するドライブを設定します。 初期値は搭載されている HDD の型番が表示されます。
4th Boot Device ※リモートブート機能を有効にすると表示されま す。	ネットワークから起動する場合に使用します。 (リモートブート機能を有効にするには、「Advanced」メニュー画面-「Onboard Devices Configuration」の「Onboard LAN Boot ROM」を [Enabled] に 設定し、変更を保存して再起動します。)
Hard Disk Drives	搭載されている HDD の順番を表示します。
1st Drive 2nd Drive	HDD の型番が表示されます。
Removable Drives	接続している記憶装置の順番を表示します。
1st Drive 2nd Drive 3rd Drive 4th Drive	接続している記憶装置（USB FDD など）の型番が表示されます。
Optical Disc Drive	搭載されている光ディスクドライブの順番を表示します。
1st Drive	光ディスクドライブの型番が表示されます。
Boot Settings Configuration	コンピューター起動時の設定をします。
Full Screen Logo	コンピューター起動時にロゴを表示するかどうかを設定します。 Disabled：表示しません。 Enabled：表示します。
Bootup Num-Lock	DOS 起動時の NumLock の状態を設定します。 Off：NumLock が押されていない状態にします。 On：NumLock が押された状態にします。


Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、パスワードやセキュリティーに関する設定を行います。
 パスワードの設定方法は、 p.93 「パスワードを設定する」をご覧ください。
 設定項目は、次のとおりです。

 は初期値

*は項目表示のみ

Security Settings	システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティー」起動時などのパスワードを設定します。
Supervisor Password/ User Password	Supervisor Password (管理者パスワード) と User Password (ユーザーパスワード) が設定されているかどうかを表示します。 Installed  : パスワードが設定されています。 Not Installed  : パスワードが設定されていません。
Change Supervisor Password	管理者パスワードの設定や変更を行います。設定を行うと、「BIOS Setup ユーティリティー」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。  を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
User Access Level ※管理者パスワードを設定 すると表示されます。	「User Password」(ユーザーパスワード) で「BIOS Setup ユーティリティー」にアクセスするときのアクセス制限レベルを4段階で設定します。 No Access  : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setup ユーティリティー」を起動することができません。 View Only  : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setup ユーティリティー」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited  : 「BIOS Setup ユーティリティー」を閲覧できるほかに、ユーザーパスワードなど一部の設定項目を変更できます。 Full Access  : ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。「BIOS Setup ユーティリティー」のすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。
Change User Password ※管理者パスワードを設定 すると表示されます。	ユーザーパスワードの設定や変更を行います。「BIOS Setup ユーティリティー」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。  を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Clear User Password ※ユーザーパスワードを設定 すると表示されます。	ユーザーパスワードを削除します。  を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。
Password Check ※管理者パスワードを設定 すると表示されます。	管理者パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup  : 「BIOS Setup ユーティリティー」起動時にパスワード入力を要求します。 Always  : 「BIOS Setup ユーティリティー」起動時、システム起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。
TPM Function	セキュリティーチップ (TPM) の設定をします。
Trusted Platform Module	セキュリティーチップ (TPM) を使用するかどうかを設定します。 Disabled  : 使用しません。 Enabled  : 使用します。

Clear Trusted Platform Module	<p>「Trusted Platform Module」を [Enabled] に設定すると表示されます。セキュリティチップに保存されている情報を初期化します。</p> <p>※初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。セキュリティチップの初期化を行う場合は、お客様の責任において十分に注意して行ってください。</p> <p>初期化する場合は、 を押し、確認画面が表示されたら [OK] を選択します。情報が初期化され、コンピューターが再起動します。再起動後、「Trusted Platform Module」は [Disabled] に設定されます。</p>
Hard Disk Security	HDD のセキュリティ機能の設定をします。
Hard Disk Protection ※管理者パスワードを設定すると設定可能になります。	<p>HDD へのアクセス制限の有効 / 無効を設定します。アクセス制限を有効に設定した HDD は、ほかのコンピューターに接続しても認識されなくなります。</p> <p>有効に設定すると、BIOS、システムへのアクセスが制限され、BIOS 起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。</p> <p>Disabled : HDD へのアクセスを制限しません。</p> <p>Enabled : HDD へのアクセスを制限します。</p>

Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setup ユーティリティを終了したり、BIOS の設定値を初期値に戻したりします。

設定項目は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setup ユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setup ユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setup ユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	BIOS Setup ユーティリティの設定値を、BIOS の初期値に戻します。 ※ 「Security」メニュー画面の項目を BIOS の初期値に戻すことはできません。
Save User Define	BIOS の設定値をユーザー設定値として保存します。
Load Setup User Define	※ 「Save User Define」で設定値を保存後、実行可能になります。 設定値をユーザー設定値に戻します。

BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくくと便利です。ユーザー設定値は、保存しておくこともできます。  p.92 「ユーザー設定値を保存する」

Main メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Legacy Diskette A		Disabled	1.44MB,3.5in	Disabled	1.44MB,3.5in
SATA0 SATA1 SATA2 SATA3	Type	Auto	Not Installed	Auto	Not Installed
	LBA/Large Mode	Auto	Disabled	Auto	Disabled
	Block Mode	Auto	Disabled	Auto	Disabled
	32Bit Data Transfer	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Advanced メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
CPU Configuration	Ratio Setting				
	Hyper Threading Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Virtualization Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Turbo Boost Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Onboard Devices Configuration	Onboard Audio	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	AUX Disable/Enable	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Serial Port 1	Disabled 3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3		Disabled 3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3	
	Serial Port 2	Disabled 3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3		Disabled 3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3	
	Parallel Port Address	Disabled 378/IRQ7 278/IRQ5 3BC/IRQ7		Disabled 378/IRQ7 278/IRQ5 3BC/IRQ7	
	Parallel Port Mode	Normal ECP EPP	Bi-Directional ECP & EPP	Normal ECP EPP	Bi-Directional ECP & EPP
USB Configuration	USB 2.0 Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Power メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
APM Configuration	Restore on AC Power Loss	Power Off	Power On Last State	Power Off	Power On Last State
	Power On By RTC Alarm	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PCI Devices	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PCIE Devices	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PS/2 Keyboard	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Wake up Key Select	Ctrl + ESC	Power Key	Ctrl + ESC	Power Key

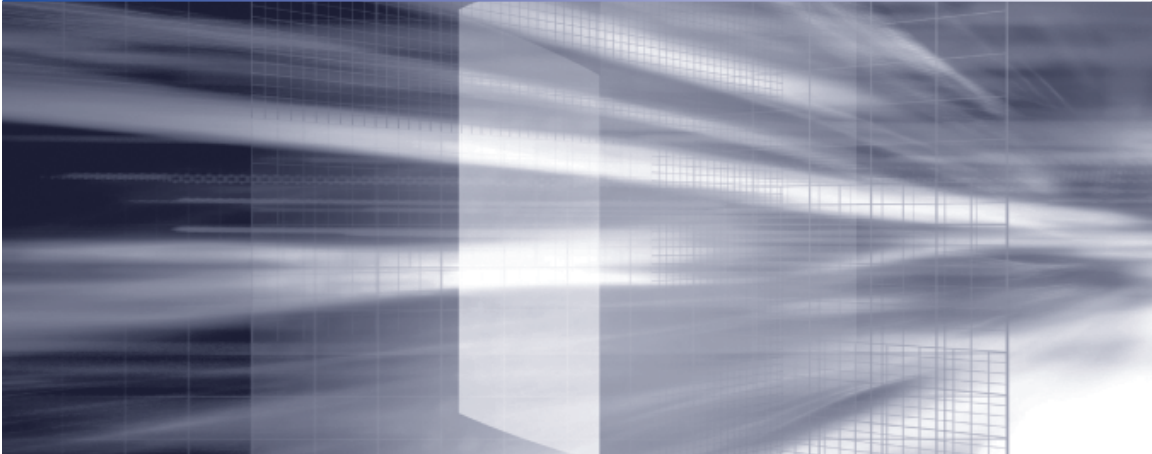
Boot メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	2nd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	3rd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	4th Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Bootup Num-Lock	Off	On	Off	On

Security メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Security Settings	Supervisor password	Not Installed	Installed	Not Installed	Installed
	User password	Not Installed	Installed	Not Installed	Installed
	* User Access Level	No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access
	* Password Check	Setup	Always	Setup	Always
	Trusted Platform Module	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Hard Disk Security	* Hard Disk Protection	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

* 管理者パスワードを設定すると表示されます。



付録

本機のお手入れ方法や HDD 領域の変更方法などについて記載しています。

お手入れ	110
消去禁止領域のデータをバックアップする	111
セキュリティーチップ (TPM) によるデータの暗号化...	113
HDD 領域 (ドライブ) の分割・変更・作成	114
リチウム電池の交換	121
コンピューターを廃棄するときは	124

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。



お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装の汚れ

コンピューター本体の外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。キーボードやマウスの外装の汚れも同様です。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。

通風孔メッシュ

コンピューター本体左側面の通風孔（吸気用）にあるメッシュにホコリなどがたまると、空気の通りが悪くなります。

通風孔メッシュのホコリは、定期的に乾いた柔らかい布で取り除いてください。

コンピューター本体内部

本体内部にホコリなどがたまっている場合は、エアースプレーで吹き飛ばしてください。



- 作業するときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火災の原因となります。
- 電源ユニットは絶対に分解しないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



- 作業時は、誤って本体内部の部品を傷つけないよう注意してください。
- 水分を含ませたティッシュや化学ぞうきんなどは、使わないでください。
水分や化学物質により故障の原因となります。

消去禁止領域のデータをバックアップする

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

HDD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データは、CD メディアにバックアップすることができます。

HDD が故障したり、誤って消去禁止領域を削除したりすると、インストール用データは消えてしまいます。万一来に備え、インストール用データを CD メディアにバックアップしておくことをおすすめします。

バックアップCDの作成方法

バックアップCD はリカバリーツールを使用して作成します。作成方法は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。



<リカバリーツールアイコン>

- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい (続行)] をクリックします。

- 3 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[CD 作成] をクリックします。

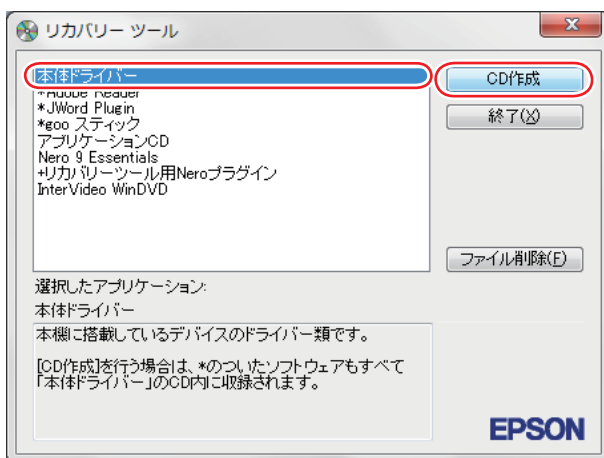
[CD 作成] をクリックできない場合は、次の項目について確認してください。

- 書き込み機能のある光ディスクドライブが搭載されているか
- 「Nero 9 Essentials」と「リカバリーツール用 Nero プラグイン」がインストールされているか

 別冊『ユーザーズマニュアル』－「Nero 9 Essentials のインストール」

- 4 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から CD にバックアップしたい項目を選択して [CD 作成] をクリックします。

バックアップするデータが一時的に HDD にコピーされます。選択した項目によっては、**5** の画面が表示されるまでに数分かかります。



<イメージ>



- 「*」の付いているソフトウェアは、すべて本体ドライバーのCD内に収録されます。
- 「リカバリーツール用 Nero プラグイン」は、「Nero 9 Essentials」のCD内に収録されます。
- それ以外の項目は、1項目につきCDメディアが1枚必要です。

5 画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってCDに書き込みを行ってください。

バックアップCDからインストールを行うには

作成したバックアップCDから本体ドライバーやソフトウェアをインストールする方法は次のとおりです。

ここでは、本体ドライバーのバックアップCDからインストールする手順を例に説明します。

1 作成した本体ドライバーのバックアップCDを光ディスクドライブにセットします。

2 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。

「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピューター」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。

「Setup.exeの実行」など、CDにより項目名は異なります。


3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。

Windows Vistaの場合は、[続行]または[許可]をクリックします。

4 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、[インストール]をクリックします。

本体ドライバー以外のソフトウェアをインストールする場合は、ソフトウェア名をクリックします。

表示される画面は、作成したバックアップCDにより異なります。

以降の手順は、『別冊』『ユーザーズマニュアル』 - 「ドライバー/ソフトウェアのインストール」のそれぞれの項目をご覧ください。

セキュリティーチップ (TPM) によるデータの暗号化

本機に搭載されているセキュリティーチップ (TPM) を使用すると、本機に保存されているデータを高度に暗号化することができます。TPM のセキュリティー機能の使用方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルビューワ」 - 「セキュリティー機能 (TPM) 設定ガイド」



制限

TPM のセキュリティー機能で設定したパスワードは絶対に忘れないでください。忘れた場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。

使用上の注意

これは管理者向けの機能です。TPM のセキュリティー機能を使用する場合は、内容を十分に理解し、お客様の責任において暗号化を行ってください。

TPMのセキュリティー機能使用前の準備

TPM のセキュリティー機能を使用するには、BIOS の設定と「セキュリティーチップユーティリティ」のインストールが必要です。

●BIOS の設定

「BIOS Setup ユーティリティ」の設定値を次のように変更します。

「Security」メニュー画面 - 「Trusted Platform Module」: [Enabled] (有効)



p.88 「BIOS Setup ユーティリティの操作」



p.105 「Security メニュー画面」

●セキュリティーチップユーティリティのインストール

購入時、本機に「セキュリティーチップユーティリティ」はインストールされていません。TPM のセキュリティー機能を使用するには、セキュリティーチップユーティリティのインストールを行う必要があります。

インストール方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルビューワ」 - 「セキュリティー機能 (TPM) 設定ガイド」

HDD 領域（ドライブ）の分割・変更・作成

ここでは、HDD 領域（ドライブ）を分割・変更して使用方法について説明します。

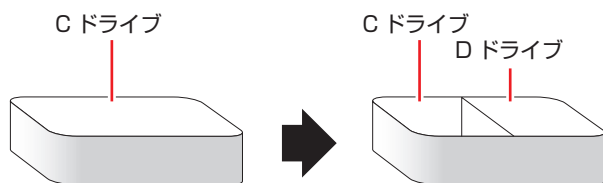
HDD領域を分割して使用する(概要)

HDD 領域（ドライブ）の分割

HDD 領域は、いくつかに分けて、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。分割したひとつひとつの領域を「HDD 領域」または「パーティション」と言います。また、Windows で使える HDD 領域が、「ドライブ」になります。

1 台の HDD を分割する

例：1 つの HDD 領域（C ドライブ）を、2 つの HDD 領域（C ドライブと D ドライブ）に分割します。



参考

消去禁止領域

HDD 領域には、「消去禁止領域」が作成されています。

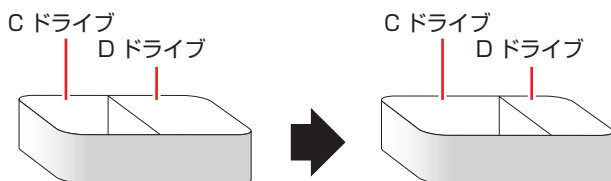
「消去禁止領域」には、本体ドライバーやソフトウェアなどを再インストールするためのデータと「Windows 回復環境 (Windows RE)」が設定されています。この領域を削除すると再インストールができなくなりますので、ご注意ください。

HDD 領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されている HDD 領域のサイズ（容量）は変更することができます。

ドライブのサイズを変更する

例：C ドライブのサイズを大きくします。



サイズを変更する場合は、C ドライブと D ドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

Cドライブを分割・変更する

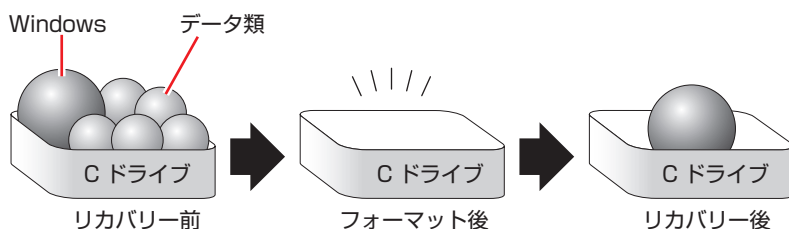
Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

メリット

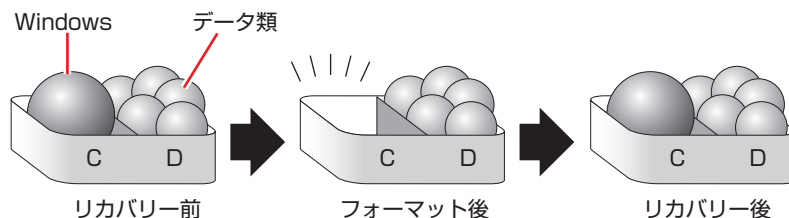
HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリー（Windowsの再インストール）時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

HDD領域が1つの場合



リカバリー（Windowsの再インストール）を行うと、Cドライブのデータはすべて消去されます。

HDD領域を分割した場合



たとえば、WindowsやソフトウェアはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリー（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリー後、すぐにそのまま使用することができます。



制限

HDDが分割されている状態でリカバリーを行うときは、万々に備えてCドライブ以外のドライブの重要なデータもバックアップしてください。

デメリット

- Cドライブ（Windowsが入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリー（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

Cドライブの分割・変更の流れ

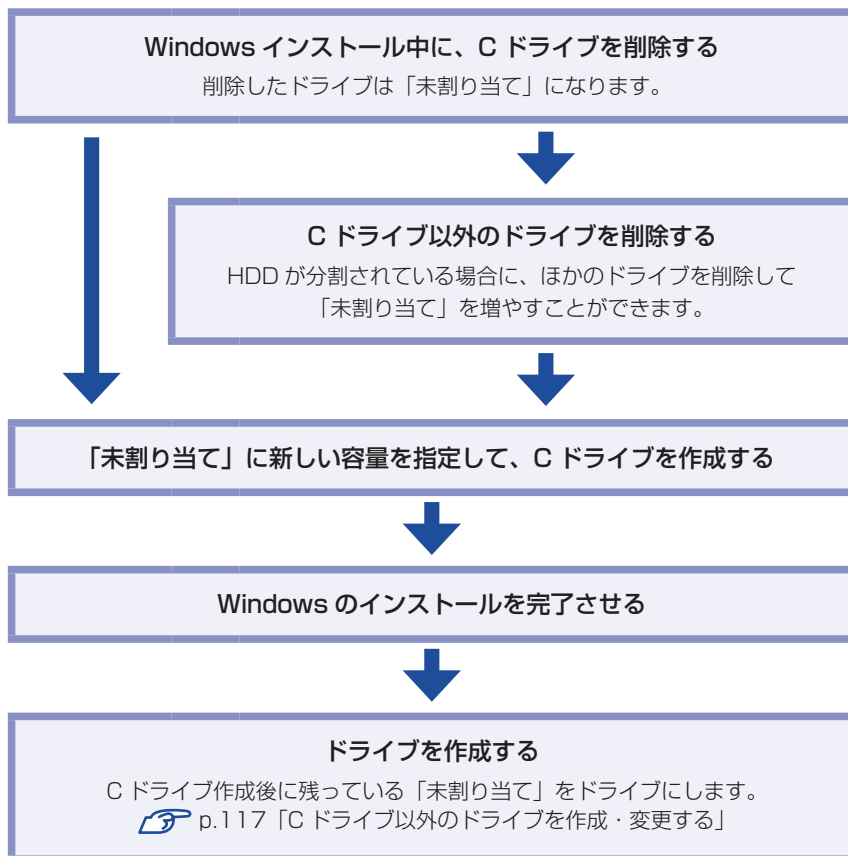
Cドライブの分割・変更は、リカバリー（Windowsの再インストール）中に行います。リカバリー方法は、[別冊](#)『ユーザーズマニュアル』－「Windowsのインストール」をご覧ください。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。

Cドライブ以外のドライブの変更方法は、[👉](#) p.117 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。



ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。必要に応じてバックアップを取っておいてください。

Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。




Cドライブを分割・変更する

Cドライブの分割・変更をする場合は、Windowsの再インストールが必要です。[別冊](#)『ユーザーズマニュアル』－「Windowsのインストール」で、「領域変更を行う場合」の手順に従って、Windowsのインストールを行ってください。


Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

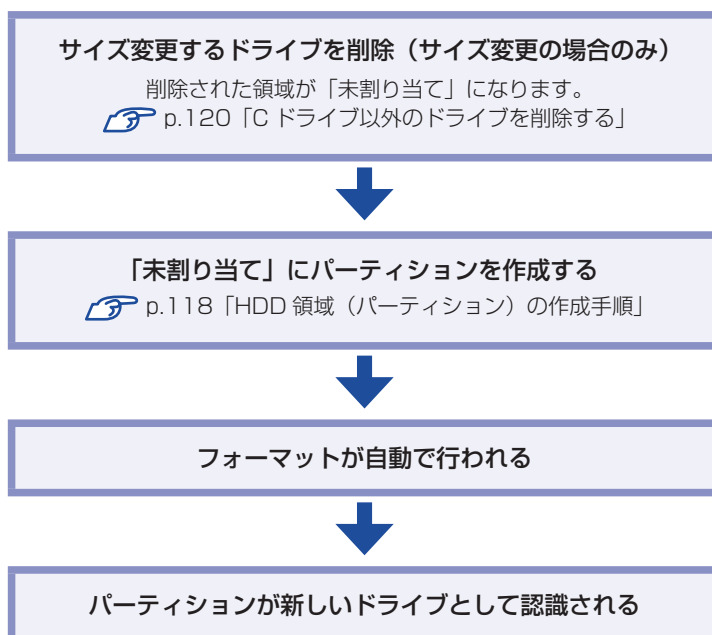
ここでは、Cドライブ以外のドライブを作成・変更する方法について説明します。
次のような場合にご覧ください。

- Cドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成・変更された「未割り当て」をドライブにして使用する場合

Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割・変更を行う場合は、 p.116 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ

ドライブの作成の流れは次のとおりです。
作業は  p.118 「HDD領域（パーティション）の作成手順」に従ってください。



※HDD内の「未割り当て」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ（DやEなど）として利用できるようになります。



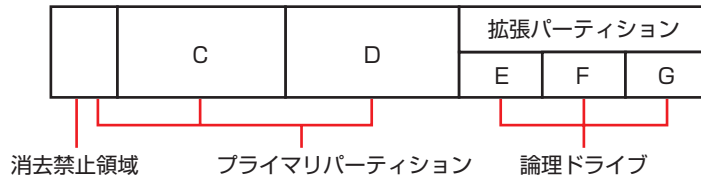
参考

パーティションとは

ドライブの作成・変更を行う画面（ディスクの管理）では、HDD 領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。

- 1 つの HDD に作成できるパーティションは最大で 4 つです。「消去禁止領域」もパーティションの 1 つです。
- パーティションを作成すると、自動的に 3 つ目まではプライマリパーティションとなり、4 つ目は拡張パーティションとなります。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

<パーティションの組み合わせの例>



HDD 領域（パーティション）の作成手順

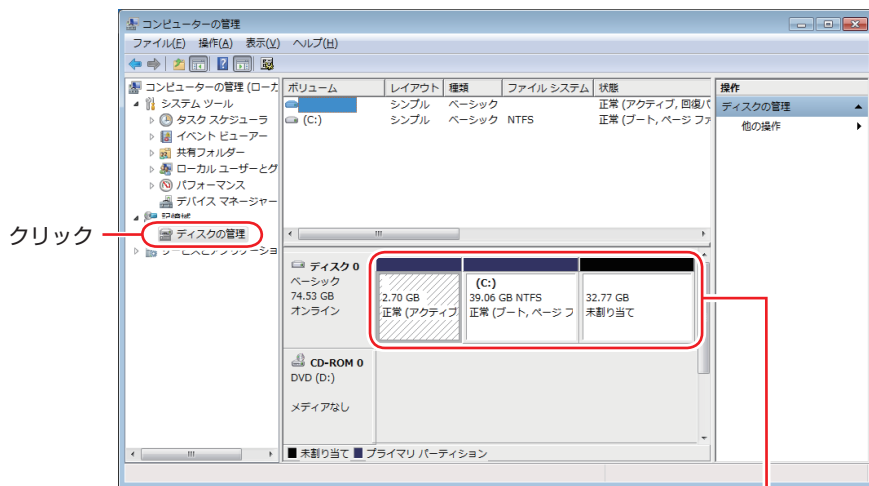
HDD 領域（パーティション）を作成する手順は、次のとおりです。

- 1 **【スタート】** - 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ（メンテナンス）」 - 「管理ツール」 - 「コンピューターの管理」をダブルクリックします。

Windows Vista の場合、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。[続行] をクリックしてください。

- 2 **「コンピューターの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。**

HDD 領域の状態が表示されます。

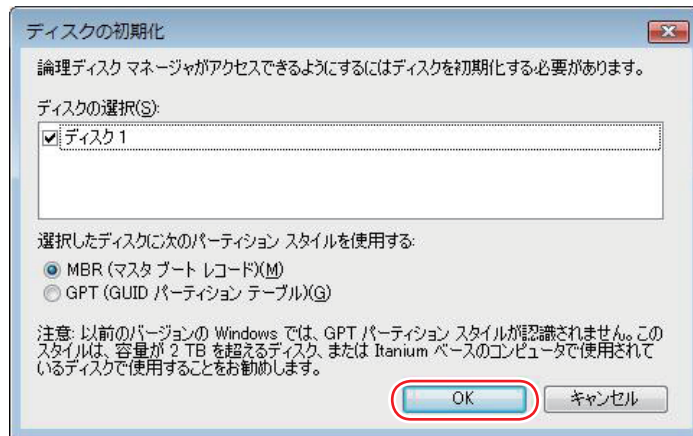


<イメージ>

HDD 領域の状態

新しいHDDを増設した場合

「ディスクの初期化」画面が表示されます。[OK] をクリックして、ディスクの初期化を行ってください。



- 3** パーティションを作成したい「未割り当て」を右クリックして、表示されたメニューから「新しいシンプルボリューム」をクリックします。
- 4** 「新しいシンプルボリュームウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 5** 「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、[次へ] をクリックします。
- 6** 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して [次へ] をクリックします。
- 7** 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 8** 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。

フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、HDD 領域（パーティション）の作成は完了です。

Cドライブ以外のドライブを削除する

Cドライブ以外のドライブ（DやEなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除してから、作成しなおします。

ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、Cドライブや外付けHDDなどにあらかじめバックアップを行ってください。

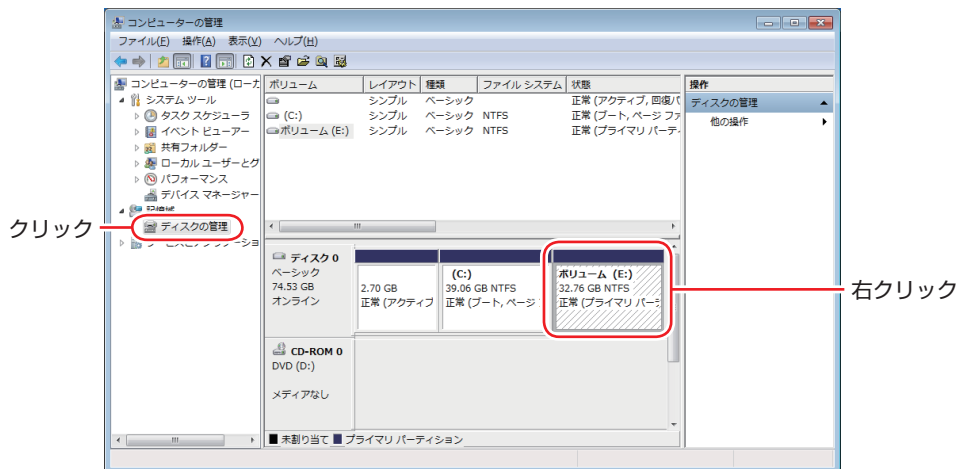
ドライブを削除する手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ (メンテナンス)」 - 「管理ツール」 - 「コンピューターの管理」をダブルクリックします。

Windows Vista の場合、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。[続行] をクリックしてください。

- 2 「コンピューターの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。

HDD 領域の状態が表示されます。



<イメージ>

- 3 削除したいドライブ (パーティション) の領域を右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。

- 4 「・・・続行しますか?」と表示されたら [はい] をクリックします。

パーティションを削除すると、「未割り当て」になります。「未割り当て」をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

p.118 「HDD 領域 (パーティション) の作成手順」

リチウム電池の交換

「BIOS Setup ユーティリティ」で設定した情報は、マザーボード上のリチウム電池により保持されます。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

●CR2032（または同等品）

リチウム電池は消耗品です。コンピューターの使用状況により異なりますが、寿命は約3年です。日時や時間がおかしくなったり、BIOSで設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。





- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



- 内蔵リチウム電池の交換は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- リチウム電池の交換を行うと、現在のBIOSの設定情報はBIOSの初期値に戻ります。リチウム電池の交換を行う前に、ユーザー設定値を保存するか、現在の設定値を記録しておくことをおすすめします。
 p.92 「ユーザー設定値を保存する」
 p.107 「BIOSの設定値」

リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

1

本機および接続している周辺機器の電源を切ります。

作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。

2

本機に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。

3

本体カバーを取り外します。

 p.71 「本体カバーの取り外し・取り付け」 - 「取り外し」

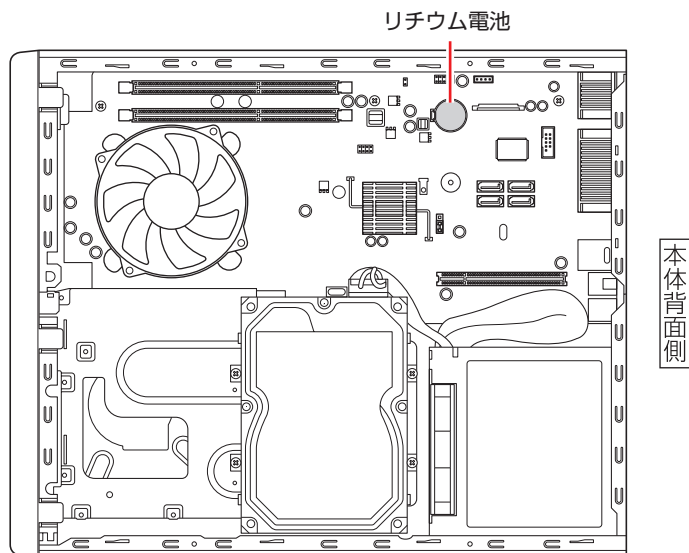


4 拡張ボードを装着している場合は、リンクバーを取り外します。

 p.75 「拡張ボードの取り付け・取り外し」 - 「取り付け」 **4**

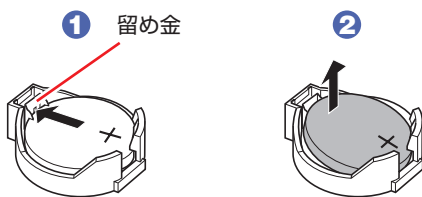
5 リチウム電池の位置を確認します。

リチウム電池は、マザーボード上の次の位置にあります。



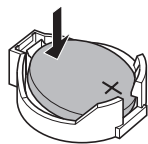
6 リチウム電池を抜きます。

- 1** 電池ホルダーの留め金を押します。
- 2** リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。








7 新しいリチウム電池を取り付けます。

刻印面(+側)が表側になるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。取り付けると「カチッ」と音が鳴ります。



8 **4** でリンクバーを取り外した場合は、元どおりに取り付けます。

 p.77 「拡張ボードの取り付け・取り外し」 - 「取り付け」 **8**

- 9** 本体カバーを取り付けます。
 p.73 「本体カバーの取り外し・取り付け」 – 「取り付け」
- 10** **2** で取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。
- 11** 本機の電源を入れます。
- 12** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「CMOS Checksum Bad」と表示されたら、
F1 を押して、BIOS Setup ユーティリティを起動します。
 p.87 「BIOS Setup ユーティリティの起動」
- 13** **F5** を押して、BIOS を初期値に戻します。
 p.92 「Load Setup Defaults (BIOS の初期値に戻す)」
- 14** 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。
保存しておいたユーザー設定値に戻す場合は、「Load Setup User Define」を実行します。
 p.93 「Load Setup User Define (ユーザー設定値に戻す)」
- 15** **F10** を押して BIOS Setup ユーティリティを終了します。
 p.91 「BIOS Setup ユーティリティの終了」

コンピューターを廃棄するときは

本機を廃棄する際の注意事項や、HDD のデータ消去方法について説明します。
パソコン回収サービスについては、下記ホームページをご覧ください。

<http://shop.epson.jp/pcrecycle/>

コンピューターの廃棄・譲渡時のHDD上のデータ消去に関するご注意

コンピューターは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのコンピューターの中のHDDという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのコンピューターを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。

ところが、このHDD内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ① データを「ごみ箱」に捨てる
- ② 「削除」操作を行う
- ③ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ④ ソフトで初期化（フォーマット）する
- ⑤ 付属のリカバリー CD/DVD を使い、工場出荷状態に戻す

などの作業を行うと思います。

まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元する事ができてしまいます。更に②～⑤の操作をしても、HDD内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このコンピューターのHDD内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。

コンピューターユーザーが、廃棄・譲渡等を行う際に、HDD上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、HDDに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（有償）を利用するか、HDD上のデータを物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、HDD上のソフトウェア(OS、アプリケーションソフトなど)を削除することなくコンピューターを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前に HDD のデータを消去してください。

リカバリーツール CD に収録されている「システム診断ツール」では、HDD 内のデータをすべて消去することができます。

消去を開始すると、HDD のデータは元には戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。



制限

データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。HDD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

消去されるデータ










HDD を 2 台搭載している場合

この機能で消去できるデータは、1 台目の HDD のデータのみです。2 台目の HDD のデータを削除したいときは、1 台目の HDD に接続されているシリアル ATA ケーブルを、2 台目の HDD に接続してからデータの消去を行ってください。

 p.79 「HDD の装着」

データの消去

HDD 内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、リカバリーツール CD を光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示されたら、 をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [D] - 「再起動」をクリックして、本機を再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面の左下に「Kernel Loading . . . Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4**  +  を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。
- 5** 選択項目画面が表示されたら、 で「HD Erase」を選択して  を押します。
- 6** 選択項目画面が表示されたら、 で「Full Erase」を選択して  を押します。
- 7** 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して  を押します。
「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。
消去を中止する場合は、 を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。



8 キーボードで「Yes」と入力します。

消去が始まります。

消去には、しばらく時間がかかります。かかる時間は HDD の容量によって異なります（40GB の HDD の場合で約 30 分）。

9 「Erase of HDO :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、リカバリツール CD を光ディスクドライブから取り出して、コンピューターの電源を切ります。

これでデータの消去は完了です。

